

「平成27年度全国学力・学習状況調査」の結果概要について

富山市教育委員会

I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

II 実施状況

- 1 実施期日 平成27年4月21日(火)
- 2 調査内容 教科に関する調査 国語、算数・数学
理科(平成24年度以来、2回目の実施)
質問紙調査 児童生徒、学校
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
65校	3,593人	26校1分校	3,552人

※ 4月21日現在、浜黒崎小学校松風分校に6年生の在籍はなし。

III 教科に関する結果の概況

1 教科区分別平均正答率(%)

	小学校6年					中学校3年				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
富山市	72.1	70.2	79.0	47.7	67.1	79.1	69.5	68.2	46.3	60.8
富山県	72.9	70.1	78.5	47.5	67.5	78.1	68.2	67.1	44.5	59.2
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

(A:主として「知識」に関する問題、B:主として「活用」に関する問題)

本市の教科区分別平均正答率は、小・中学校において、全て、全国を上回っている。

2 教科区分別平均正答率の推移

平成19年度に本調査実施以来、本市の教科区分別平均正答率は、全国の平均正答率と同等又は上回っている。国語、算数・数学の全国との差を昨年度と比較すると、小学校では全国との差がやや縮まり、中学校はほぼ同じである。また、3年ぶりに実施された理科では、小学校は6.3ポイント、中学校は7.8ポイント、全国平均を上回った。

3 問題AとBの平均正答率の比較

問題AとBの平均正答率を比較すると、問題Bの方が、小学校では国語で1.9ポイント、算数で31.3ポイント低く、中学校でも、国語で9.6ポイント、数学で21.9ポイント低い。小・中学校ともに活用する力に課題があり、全国的な状況と同様の傾向が見られる。

4 小学校6年生 教科区分別平均正答率の推移

		国語 A								国語 B							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
平均正答率	富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2
	市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8
	市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1
	富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1
	県一全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7
	全国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4
標準偏差	富山市	2.5	3.7	3.1	2.5	2.6	3.6	2.8	2.6	2.5	3.1	2.3	2.3	2.5	2.5	2.3	2.2
	富山県	2.5	3.6	3.0	2.5	2.6	3.5	2.9	2.6	2.5	3.1	2.3	2.4	2.5	2.5	2.3	2.3
	全国	2.8	4.0	3.4	2.8	2.9	3.7	3.1	2.8	2.6	3.1	2.3	2.4	2.6	2.6	2.4	2.4

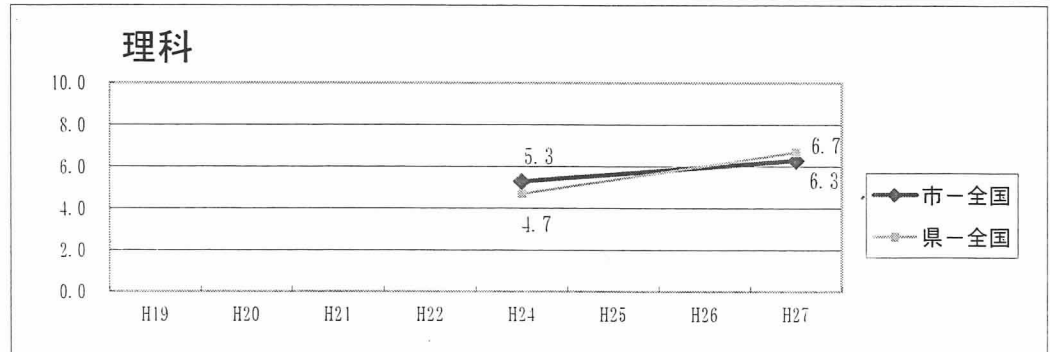
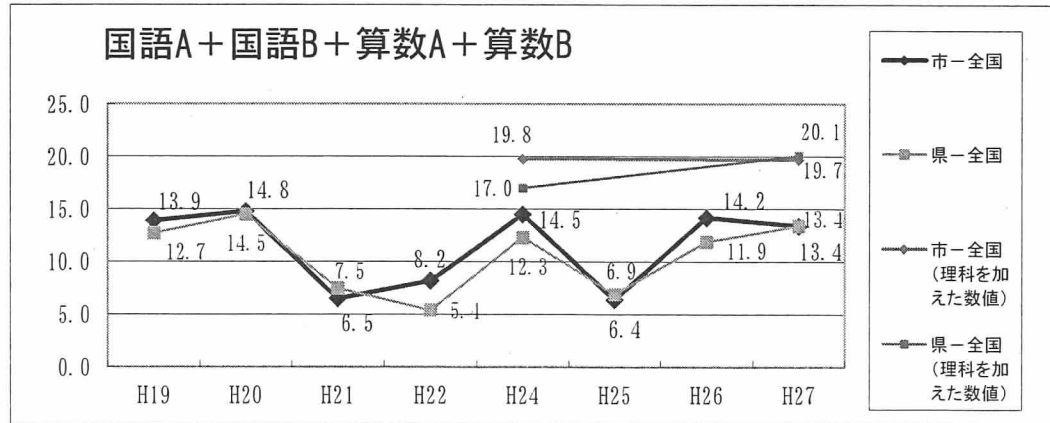
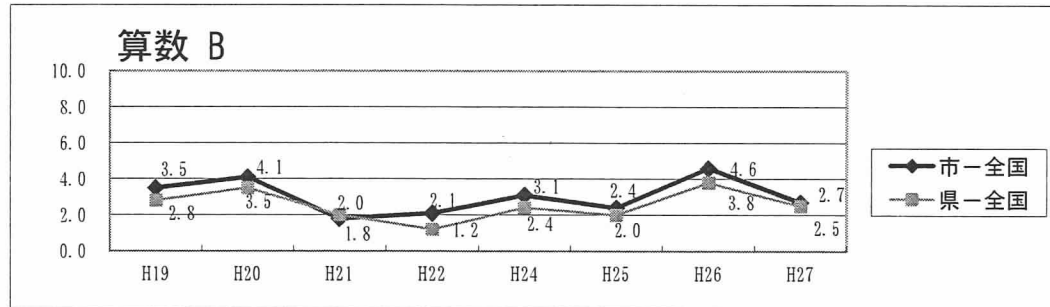
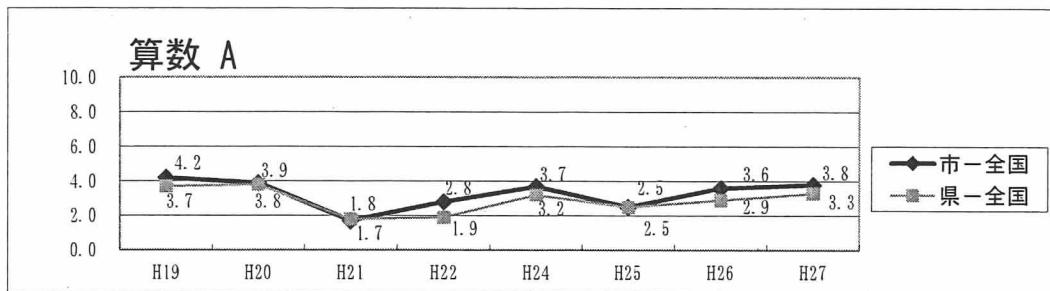
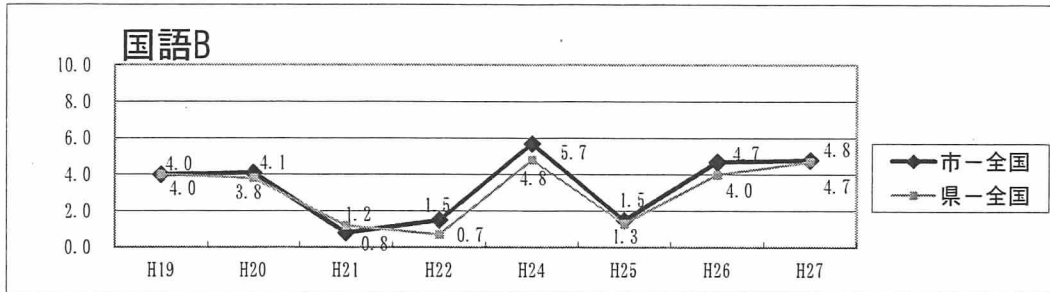
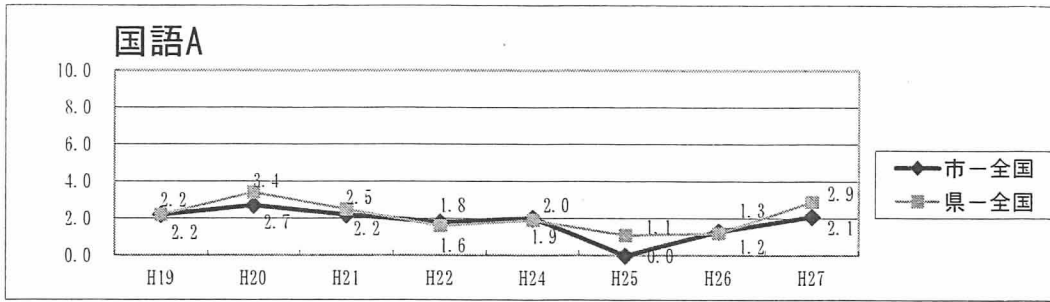
		算数 A								算数 B							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
平均正答率	富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7
	市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7
	市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2
	富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5
	県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5
	全国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0
標準偏差	富山市	3.2	3.4	3.2	3.7	3.3	3.3	2.9	3.0	2.9	2.9	3.2	2.7	3.0	3.1	3.2	2.9
	富山県	3.1	3.3	3.2	3.7	3.2	3.2	2.9	3.1	2.9	2.9	3.2	2.7	3.0	3.1	3.2	2.9
	全国	3.4	3.7	3.4	4.0	3.6	3.5	3.2	3.4	3.0	3.0	3.3	2.7	3.1	3.2	3.3	3.0

		理科							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
平均正答率	富山市	/	/	/	/	66.2	/	/	67.1
	市一全国	/	/	/	/	5.3	/	/	6.3
	市一県	/	/	/	/	0.6	/	/	-0.4
	富山県	/	/	/	/	65.6	/	/	67.5
	県一全国	/	/	/	/	4.7	/	/	6.7
	全国	/	/	/	/	60.9	/	/	60.8
標準偏差	富山市	/	/	/	/	4.4	/	/	4.7
	富山県	/	/	/	/	4.4	/	/	4.7
	全国	/	/	/	/	4.8	/	/	5.0

・H19、20、21、25、26、27:対象学年全員参加方式で実施。
 ・H22、24:抽出方式で実施。(抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。)
 ・H23:未実施。

【小学校6年生】

※全国の平均正答率との差（％）



5 中学校3年生 教科区分別平均正答率の推移

		国語 A								国語 B							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
平均正答率	富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5
	市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7
	市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3
	富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2
	県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4
	全国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8
標準偏差	富山市	5.4	5.3	5.4	5.9	5.3	5.4	5.3	5.4	2.3	2.4	2.3	2.2	1.9	2.2	2.3	1.9
	富山県	4.9	5.2	5.4	5.9	5.0	5.3	5.3	5.6	2.2	2.4	2.4	2.3	1.9	2.2	2.3	1.9
	全国	5.5	5.8	6.1	6.4	5.5	5.7	5.7	6.0	2.4	2.5	2.7	2.4	2.0	2.3	2.3	2.0

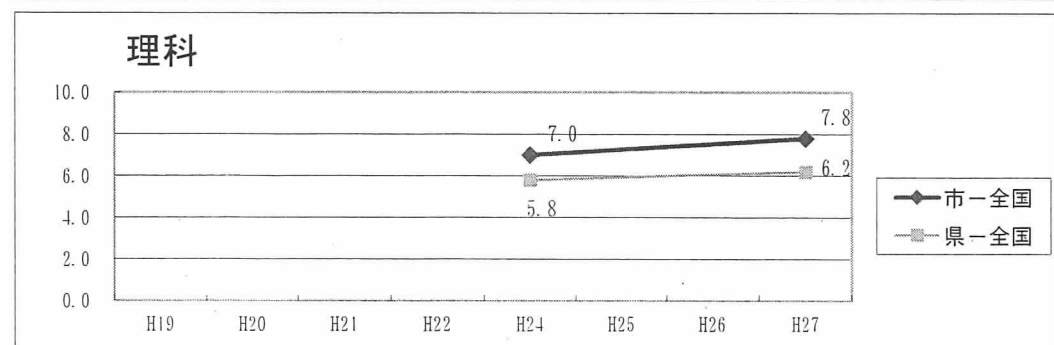
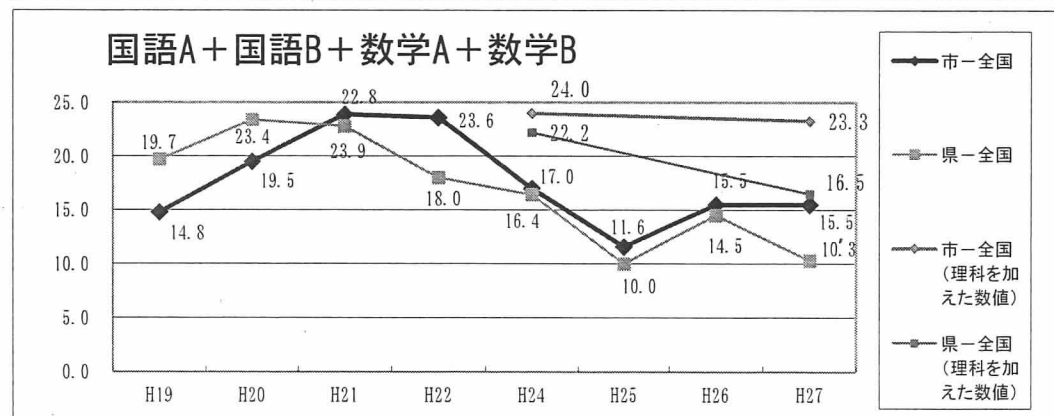
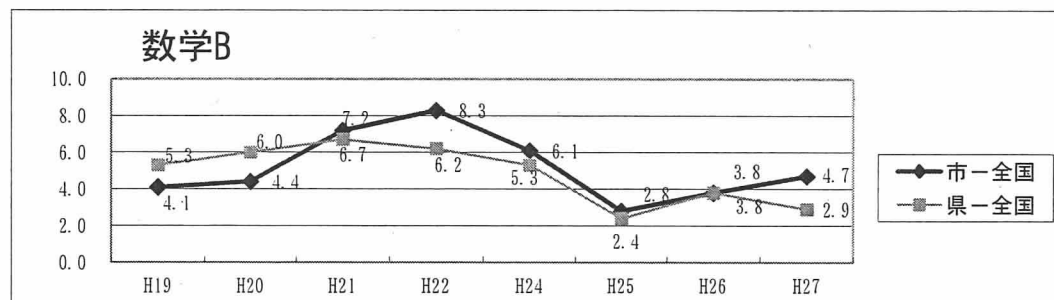
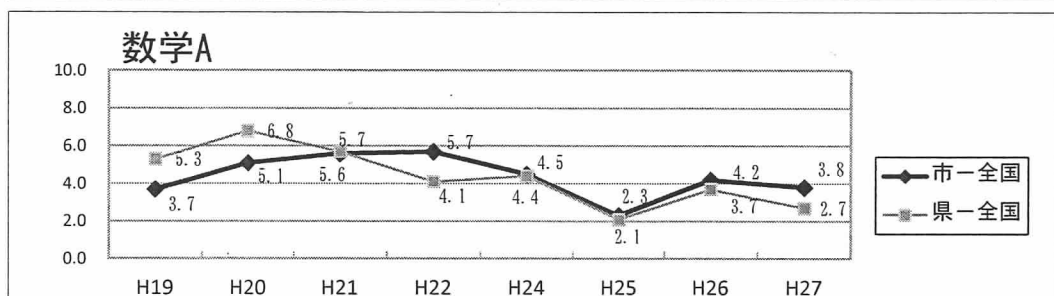
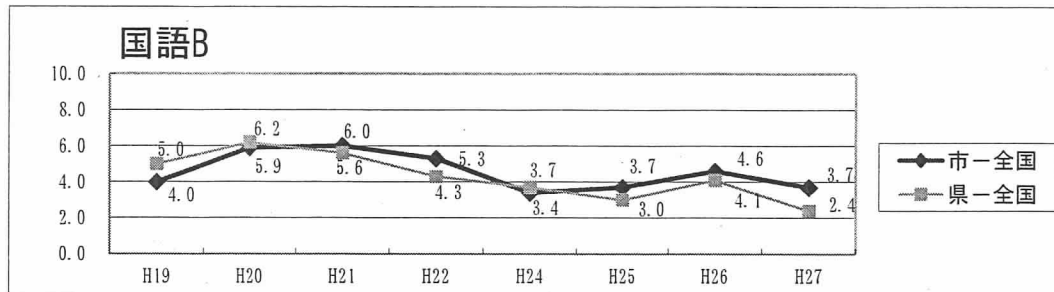
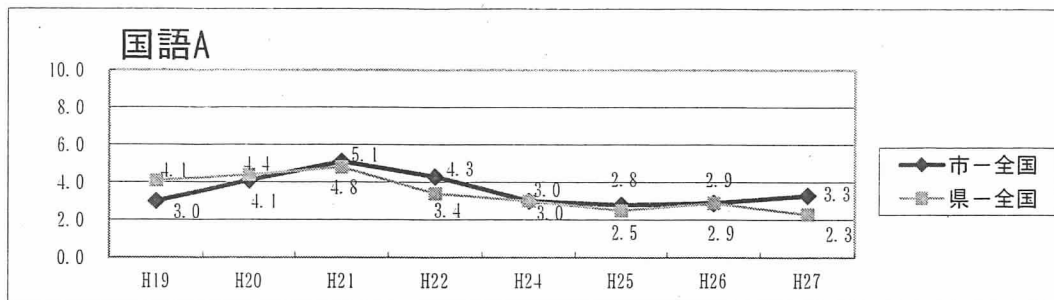
		数学 A								数学 B							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
平均正答率	富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3
	市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7
	市一県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8
	富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5
	県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9
	全国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6
標準偏差	富山市	8.8	9.0	7.5	8.4	7.9	8.2	8.1	7.7	4.4	3.7	3.8	3.8	3.9	4.0	3.7	3.7
	富山県	8.3	8.7	7.4	8.5	7.6	8.0	8.1	7.8	4.2	3.7	3.8	3.8	3.8	4.0	3.7	3.7
	全国	8.7	9.0	7.6	8.8	7.9	8.0	8.2	8.0	4.3	3.7	3.9	3.8	3.9	4.1	3.9	3.8

		理科							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
平均正答率	富山市	/	/	/	/	58.0	/	/	60.8
	市一全国	/	/	/	/	7.0	/	/	7.8
	市一県	/	/	/	/	1.2	/	/	1.6
	富山県	/	/	/	/	56.8	/	/	59.2
	県一全国	/	/	/	/	5.8	/	/	6.2
	全国	/	/	/	/	51.0	/	/	53.0
標準偏差	富山市	/	/	/	/	5.5	/	/	5.6
	富山県	/	/	/	/	5.4	/	/	5.7
	全国	/	/	/	/	5.4	/	/	5.7

・H19、20、21、25、26、27: 対象学年全員参加方式で実施。
 ・H22、24: 抽出方式で実施。(抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。)
 ・H23: 未実施。

【中学校3年生】

※全国の平均正答率との差(%)



6 小学校6年生 分類区分別平均正答率

・以下の集計値は、4月21日に実施した調査の結果を集計した値である。

凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

[国語A：主として知識]

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	72.1	72.9	70.0

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	◎	57.4	56.0	53.0
	書くこと	1	◎	87.5	86.5	86.0
	読むこと	4	○	56.4	56.6	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	○	79.3	80.8	77.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	—	—
	話す・聞く能力	1	◎	57.4	56.0	53.0
	書く能力	1	◎	87.5	86.5	86.0
	読む能力	4	○	56.4	56.6	55.2
	言語についての知識・理解・技能	9	○	79.3	80.8	77.2
問題形式	選択式	7	◎	70.4	70.3	66.4
	短答式	7	○	73.8	75.5	73.7
	記述式	0	—	—	—	—

[国語B：主として活用]

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	70.2	70.1	65.4

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—	
	書くこと	6	◎	66.4	66.4	61.1
	読むこと	6	◎	73.3	73.2	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	—	—	—	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	○	61.8	62.1	55.4
	話す・聞く能力	0	—	—	—	
	書く能力	6	◎	66.4	66.4	61.1
	読む能力	6	◎	73.3	73.2	68.1
	言語についての知識・理解・技能	0	—	—	—	
問題形式	選択式	3	◎	72.5	72.0	68.6
	短答式	2	◎	83.8	83.3	80.8
	記述式	4	○	61.8	62.1	55.4

【小学校6年生】

【算数A：主として知識】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	79.0	78.5	75.2

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	数と計算	7	○ 84.1	84.2	80.1
	量と測定	3	◎ 75.9	75.0	71.3
	図形	4	◎ 67.3	65.9	64.5
	数量関係	2	◎ 89.5	88.9	84.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	数学的な考え方	0	—	—	—
	数量や図形についての技能	7	◎ 81.1	80.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	9	◎ 77.5	76.6	73.6
問題形式	選択式	5	◎ 74.8	73.7	70.5
	短答式	11	◎ 81.0	80.6	77.3
	記述式	0	—	—	—

【算数B：主として活用】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	47.7	47.5	45.0

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	数と計算	4	◎ 45.1	44.9	42.4
	量と測定	3	◎ 43.8	43.5	41.7
	図形	7	◎ 47.9	47.7	45.6
	数量関係	3	◎ 46.5	46.3	43.0
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	数学的な考え方	9	◎ 38.3	38.1	35.3
	数量や図形についての技能	2	◎ 60.9	60.7	58.7
	数量や図形についての知識・理解	2	◎ 76.6	76.6	74.9
問題形式	選択式	3	◎ 72.8	72.7	70.6
	短答式	5	◎ 44.2	43.7	42.2
	記述式	5	◎ 36.1	36.1	32.5

【小学校6年生】

[理科]

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	67.1	67.5	60.8

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)				
			富山市	富山県	全国		
枠組み	主として「知識」に関する問題	9	○	66.8	68.2	61.3	
	主として「活用」に関する問題	15	◎	67.3	67.1	60.5	
学習指導要領の区分等	A区分	物質	7	○	63.7	65.3	57.4
		エネルギー	6	◎	74.2	73.6	65.6
	B区分	生命	6	○	66.8	67.7	61.2
		地球	7	◎	62.7	62.2	57.8
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0	—	—	—	—	
	科学的な思考・表現	15	◎	67.3	67.1	60.5	
	観察・実験の技能	5	○	60.3	62.5	55.5	
	自然事象についての知識・理解	4	○	75.0	75.3	68.6	
問題形式	選択式	18	◎	68.3	68.1	62.9	
	短答式	3	○	73.2	76.5	63.6	
	記述式	3	○	54.1	55.0	45.3	

7 小学校6年生 設問別結果一覧

【小学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式		正答率 誤答率 無解答率		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	5・6 (1)ウ (7)	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	解・技能		選択式	短答式
1-1	漢字を読む (友人を家に招く)	学年別漢字 配当表に示 されている 漢字を正し く読む				5・6 (1)ウ (7)							富山市 97.9 0.5 1.6 全国(公立) 97.5 0.7 1.8 0% 20% 40% 60% 80% 100%	
1-2	漢字を読む (自分の信念をつらぬく)					5・6 (1)ウ (7)							富山市 97.0 0.4 2.6 全国(公立) 96.0 0.9 3.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%	
1-3	漢字を読む (全員がすぐに承知した)					5・6 (1)ウ (7)							富山市 92.0 2.1 5.9 全国(公立) 92.5 2.5 5.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%	
1-1-1	漢字を書く (シャワーをあびる)					5・6 (1)ウ (7)							富山市 56.0 30.5 13.5 全国(公立) 58.4 24.4 17.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%	
1-1-2	漢字を書く (鳥のすを観察する)		学年別漢字 配当表に示 されている 漢字を正し く書く				5・6 (1)ウ (7)							富山市 77.9 17.9 4.2 全国(公立) 76.5 17.8 5.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1-1-3	漢字を書く (びょういんに行く)					5・6 (1)ウ (7)							富山市 79.3 18.4 2.3 全国(公立) 74.9 20.4 4.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%	
2-1	文の主語として適切なものを選択する	文の中における主語を捉える				1-2 (1)イ (カ)							富山市 65.5 34.3 0.2 全国(公立) 53.1 46.3 0.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%	
2-2	文の型として適切なものを選択する	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える				3-4 (1)イ (キ)							富山市 73.1 26.7 0.2 全国(公立) 71.7 27.8 0.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%	
3	聞き方の説明として適切なものを選択する	話の内容に対する聞き方を工夫する	5・6 エ										富山市 57.4 42.3 0.3 全国(公立) 53.0 46.5 0.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%	

【小学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率	誤答率	無解答率	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	解き技能	言語についての知識・理解	選択式				短答式
4	説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する	具体的な事例を挙げて説明する文章を書く	3・4ウ														富山市 87.5 12.2 0.3 全国(公立) 86.0 13.7 0.3
5一	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える	5・6ウ														富山市 64.8 34.4 0.8 全国(公立) 59.5 38.9 1.6
5二	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く		5・6ウ														
6	登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する	登場人物の相互関係を捉える	5・6エ														富山市 69.3 28.9 1.8 全国(公立) 67.5 29.9 2.6
7	応募のきまりを守っていないものを選択する	作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る	5・6イ	3・4(1)イ(オ)													富山市 74.8 21.9 3.3 全国(公立) 73.9 21.8 4.3

【小学校 国語B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等		評価の観点					問題形式					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	解・技能	言語についての知識・理解	選択式	短答式	記述式
1-1	新聞の割り付けとして適切なものを選択する	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする	5-6 イ					○				○			<p>富山市: 正答率 77.9%, 誤答率 21.8%, 無解答率 0.3% 全国(公立): 正答率 74.6%, 誤答率 24.9%, 無解答率 0.5%</p>
1-2	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、記事の見出しを付ける	5-6 ウ					○				○			<p>富山市: 正答率 73.2%, 誤答率 26.5%, 無解答率 0.3% 全国(公立): 正答率 70.8%, 誤答率 28.6%, 無解答率 0.6%</p>
1-3	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	5-6 ウ				○	○					○		<p>富山市: 正答率 41.4%, 誤答率 56.5%, 無解答率 2.1% 全国(公立): 正答率 34.7%, 誤答率 61.3%, 無解答率 4.0%</p>
2-ア	【ア】に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く	目的に応じ、中心となる語や文を捉える	3-4 イ						○				○		<p>富山市: 正答率 78.7%, 誤答率 19.3%, 無解答率 2.0% 全国(公立): 正答率 75.5%, 誤答率 20.9%, 無解答率 3.6%</p>
2-イ	【イ】に入る言葉として適切な内容を書き抜く		3-4 イ							○				○	
2-2	【文章】の要旨をまとめて書く	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える	5-6 ウ	5-6 ウ			○	○	○				○		<p>富山市: 正答率 83.5%, 誤答率 11.4%, 無解答率 5.1% 全国(公立): 正答率 78.4%, 誤答率 14.6%, 無解答率 7.0%</p>
2-3	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	5-6 エ	5-6 ウ			○	○	○				○		<p>富山市: 正答率 47.7%, 誤答率 47.0%, 無解答率 5.3% 全国(公立): 正答率 41.6%, 誤答率 49.7%, 無解答率 8.7%</p>
3-1	〈絵3〉の場面が始まるままとまりとして適切なものを選択する	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える	3-4 ウ							○			○		<p>富山市: 正答率 66.3%, 誤答率 28.0%, 無解答率 5.7% 全国(公立): 正答率 60.4%, 誤答率 29.9%, 無解答率 9.7%</p>
3-2	声に出して読むときの工夫とその理由を書く	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する	5-6 ウ	3-4 ア			○	○	○				○		<p>富山市: 正答率 74.5%, 誤答率 15.7%, 無解答率 9.8% 全国(公立): 正答率 66.6%, 誤答率 18.3%, 無解答率 15.1%</p>

【小学校 算数A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式		正答率	誤答率	無解答率
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	理解			
1 (1)	8.9 - 0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ	小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる	4A (2) アウ										富山市 78.1 21.6 0.3 全国(公立) 71.0 28.4 0.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1 (2)	5.21 + 0.7は0.01が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く	単位となる小数の幾つ分まで、小数の大きさを表すことができる	4A (2) ア 4A (5) アイ										富山市 78.2 21.1 0.7 全国(公立) 74.3 24.6 1.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1 (3)	小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	加法における計算の確かめの方法を理解している	2A (2) ウ 3A (2) ウ 4A (5) イ										富山市 86.7 12.0 1.3 全国(公立) 82.0 16.0 2.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2 (1)	28 + 72を計算する	繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる	2A (2) ア										富山市 98.6 1.3 0.1 全国(公立) 98.2 1.6 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2 (2)	6.79 - 0.8を計算する	末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる	4A (5) イ										富山市 74.1 25.5 0.4 全国(公立) 69.5 29.8 0.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2 (3)	5/9 - 1/4を計算する	異分母の分数の減法の計算をすることができる	5A (4) オ										富山市 84.2 14.9 0.9 全国(公立) 81.4 16.8 1.8 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2 (4)	5/6 ÷ 7を計算する	除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる	5A (4) カ										富山市 89.1 9.0 1.9 全国(公立) 84.2 11.7 4.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3	午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める	日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる	3B (3) イ										富山市 77.1 22.2 0.7 全国(公立) 74.8 24.2 1.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4 (1)	90°, 180°, 270°, 360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる	4B (2) アイ										富山市 84.1 15.6 0.3 全国(公立) 81.3 18.4 0.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【小学校 算数B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域		評価の観点			問題形式					
			数と計算	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	理解	数式や図形についての知識	短答式	記述式	
1 (1)	平行四辺形を構成することができる。四つの辺の組み合わせを選ぶ	平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる。四つの辺の組み合わせを理解している		4C (1) イ									<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>富山市</p> <p>96.1</p> <p>3.8</p> <p>0.1</p> </div> <div> <p>全国(公立)</p> <p>95.2</p> <p>4.7</p> <p>0.1</p> </div> </div>
1 (2)	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している		4C (1) アイ									<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>富山市</p> <p>57.0</p> <p>42.3</p> <p>0.7</p> </div> <div> <p>全国(公立)</p> <p>54.6</p> <p>44.4</p> <p>1.0</p> </div> </div>
1 (3)	二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く	示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる		4C (1) アイ									<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>富山市</p> <p>31.7</p> <p>59.0</p> <p>9.3</p> </div> <div> <p>全国(公立)</p> <p>27.7</p> <p>58.0</p> <p>14.3</p> </div> </div>
2 (1)	トマトを7個買うとき、最も安く買える方を選び、そのときの代金を書く	単位量当たりの大きさを用いて、目的にも安く買える方を選び、そのときの代金を求めることができる		5B (4) ア	4D (2) ア								<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>富山市</p> <p>68.6</p> <p>31.2</p> <p>0.2</p> </div> <div> <p>全国(公立)</p> <p>64.8</p> <p>34.9</p> <p>0.3</p> </div> </div>
2 (2)	20%増量した商品の内容量が480m ³ であるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	示された情報から基準量を求める場と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる		5D (3)									<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>富山市</p> <p>12.5</p> <p>84.6</p> <p>2.9</p> </div> <div> <p>全国(公立)</p> <p>13.1</p> <p>82.4</p> <p>4.5</p> </div> </div>
2 (3)	示された割引後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く	示された割引後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる		5D (3)									<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>富山市</p> <p>58.4</p> <p>33.2</p> <p>8.4</p> </div> <div> <p>全国(公立)</p> <p>51.0</p> <p>36.2</p> <p>12.8</p> </div> </div>
3 (1)	周の長さが24mの正三角形を巻き尺でつくるために、それぞれこの目盛りのところを持つべきかを書く	正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることができる		3A (4) ア 5A (1) イ	3C (1) ア								<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>富山市</p> <p>35.9</p> <p>60.0</p> <p>4.1</p> </div> <div> <p>全国(公立)</p> <p>32.5</p> <p>60.8</p> <p>6.7</p> </div> </div>
3 (2)	合同な二つの三角形を巻き尺でつくる時に、∠の角が30°になるわけを書く	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、∠の角が30°になる理由を記述できる		3C (1) アイ 5C (1) イウ									<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>富山市</p> <p>52.2</p> <p>34.8</p> <p>13.0</p> </div> <div> <p>全国(公立)</p> <p>49.1</p> <p>32.0</p> <p>18.9</p> </div> </div>
4 (1)	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる		4A (2) アイ									<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>富山市</p> <p>53.1</p> <p>44.5</p> <p>2.4</p> </div> <div> <p>全国(公立)</p> <p>52.6</p> <p>45.0</p> <p>2.4</p> </div> </div>

【小学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題	学習指導要領の区分等		評価の観点 科学的な思考・表現 観察・実験の技能 自然現象への関心・意欲・態度	問題形式 選択式 短答式 記述式													
				A区分 物質 エネルギー	B区分 生命 地球															
1 (1)	振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため適切な条件を変えた振り子を選ぶ	振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できる	○	5A (2) ア		○	○	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: white;"></div> 正答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: #cccccc;"></div> 誤答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: #666666;"></div> 無解答率 </div> <table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <th>調査先</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>85.6</td> <td>14.3</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>77.6</td> <td>22.2</td> <td>0.2</td> </tr> </table>	調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	85.6	14.3	0.1	全国(公立)	77.6	22.2	0.2
調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																	
富山市	85.6	14.3	0.1																	
全国(公立)	77.6	22.2	0.2																	
1 (2)	振り子時計の進みを調整する内容を選ぶ	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できる	○	5A (2) ア		○	○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <th>調査先</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>72.5</td> <td>26.9</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>61.2</td> <td>38.1</td> <td>0.7</td> </tr> </table>	調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	72.5	26.9	0.6	全国(公立)	61.2	38.1	0.7
調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																	
富山市	72.5	26.9	0.6																	
全国(公立)	61.2	38.1	0.7																	
1 (3)	振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、選んだわけを書く	熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述できる	○	4A (2) ア	5A (2) ア	○	○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <th>調査先</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>68.5</td> <td>31.2</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>62.8</td> <td>36.1</td> <td>1.1</td> </tr> </table>	調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	68.5	31.2	0.3	全国(公立)	62.8	36.1	1.1
調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																	
富山市	68.5	31.2	0.3																	
全国(公立)	62.8	36.1	1.1																	
1 (4)	電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ	電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用できる	○	3A (4) イ 5A (2) ア (3) ア		○	○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <th>調査先</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>59.8</td> <td>39.6</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>53.2</td> <td>45.5</td> <td>1.3</td> </tr> </table>	調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	59.8	39.6	0.6	全国(公立)	53.2	45.5	1.3
調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																	
富山市	59.8	39.6	0.6																	
全国(公立)	53.2	45.5	1.3																	
1 (5) ア	電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ	電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる	○	4A (3) ア 5A (3) イ		○	○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <th>調査先</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>81.4</td> <td>18.2</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>72.7</td> <td>26.4</td> <td>0.9</td> </tr> </table>	調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	81.4	18.2	0.4	全国(公立)	72.7	26.4	0.9
調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																	
富山市	81.4	18.2	0.4																	
全国(公立)	72.7	26.4	0.9																	
1 (5) イ	電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ	電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる	○	4A (3) ア 5A (3) イ		○	○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <th>調査先</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>77.7</td> <td>21.7</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>66.2</td> <td>32.8</td> <td>1.0</td> </tr> </table>	調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	77.7	21.7	0.6	全国(公立)	66.2	32.8	1.0
調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																	
富山市	77.7	21.7	0.6																	
全国(公立)	66.2	32.8	1.0																	
2 (1)	メダカのみすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ	メダカの雌雄を見分ける方法を理解している	○	5B (2) ア		○	○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <th>調査先</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>86.9</td> <td>12.9</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>78.0</td> <td>21.7</td> <td>0.3</td> </tr> </table>	調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	86.9	12.9	0.2	全国(公立)	78.0	21.7	0.3
調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																	
富山市	86.9	12.9	0.2																	
全国(公立)	78.0	21.7	0.3																	
2 (2) よし子	生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を	生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる	○	5B (1) ア (2) アイウ		○	○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <th>調査先</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>83.9</td> <td>15.7</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>76.3</td> <td>23.1</td> <td>0.6</td> </tr> </table>	調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	83.9	15.7	0.4	全国(公立)	76.3	23.1	0.6
調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																	
富山市	83.9	15.7	0.4																	
全国(公立)	76.3	23.1	0.6																	
2 (2) ひろし	生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を	生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる	○	5B (1) ア (2) アイウ		○	○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <th>調査先</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>73.1</td> <td>26.5</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>69.0</td> <td>30.2</td> <td>0.8</td> </tr> </table>	調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	73.1	26.5	0.4	全国(公立)	69.0	30.2	0.8
調査先	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																	
富山市	73.1	26.5	0.4																	
全国(公立)	69.0	30.2	0.8																	

【小学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「活用」に関する問題	学習指導要領の区分等		評価の観点 科学的な思考・表現 観察・実験の技能 自然事象への関心・意欲・態度	問題形式 選択式 短答式 記述式									
				A区分 物質 エネルギー	B区分 生命 地球											
2 (3)	示された器具(顕微鏡)の名称を書く	顕微鏡の名称を理解している	○		5B (2) イ	○	○	<p>正答率 誤答率 無解答率</p> <table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>68.9</td> <td>23.1</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>61.6</td> <td>22.3</td> <td>16.1</td> </tr> </table>	富山市	68.9	23.1	8.0	全国(公立)	61.6	22.3	16.1
富山市	68.9	23.1	8.0													
全国(公立)	61.6	22.3	16.1													
2 (4)	顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ	顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている	○		5B (2) イ	○	○	<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>36.2</td> <td>63.2</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>37.9</td> <td>61.1</td> <td>1.0</td> </tr> </table>	富山市	36.2	63.2	0.6	全国(公立)	37.9	61.1	1.0
富山市	36.2	63.2	0.6													
全国(公立)	37.9	61.1	1.0													
2 (5)	インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く	植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述できる	○		5B (1) ウ	○	○	<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>51.9</td> <td>46.5</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>44.2</td> <td>53.0</td> <td>2.8</td> </tr> </table>	富山市	51.9	46.5	1.6	全国(公立)	44.2	53.0	2.8
富山市	51.9	46.5	1.6													
全国(公立)	44.2	53.0	2.8													
3 (1)	水蒸気の状態の説明として当てはまるものを選ぶ	水蒸気は水が気体になったものであることを理解している	○		4A (2) ウ	○	○	<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>84.2</td> <td>15.4</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>81.9</td> <td>17.6</td> <td>0.5</td> </tr> </table>	富山市	84.2	15.4	0.4	全国(公立)	81.9	17.6	0.5
富山市	84.2	15.4	0.4													
全国(公立)	81.9	17.6	0.5													
3 (2)	水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ	予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○		4A (2) イ	○	○	<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>55.9</td> <td>43.7</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>54.0</td> <td>45.3</td> <td>0.7</td> </tr> </table>	富山市	55.9	43.7	0.4	全国(公立)	54.0	45.3	0.7
富山市	55.9	43.7	0.4													
全国(公立)	54.0	45.3	0.7													
3 (3)	水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ	水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できる	○		4A (2) イ	○	○	<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>55.4</td> <td>44.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>51.7</td> <td>47.2</td> <td>1.1</td> </tr> </table>	富山市	55.4	44.0	0.6	全国(公立)	51.7	47.2	1.1
富山市	55.4	44.0	0.6													
全国(公立)	51.7	47.2	1.1													
3 (4)	示された器具(メスシリンダー)の名称を書く	メスシリンダーの名称を理解している	○		5A (1) イ	○	○	<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>79.7</td> <td>15.0</td> <td>5.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>70.7</td> <td>18.6</td> <td>10.7</td> </tr> </table>	富山市	79.7	15.0	5.3	全国(公立)	70.7	18.6	10.7
富山市	79.7	15.0	5.3													
全国(公立)	70.7	18.6	10.7													
3 (5)	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けている	○		5A (1) イ	○	○	<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>60.6</td> <td>37.6</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>51.7</td> <td>45.4</td> <td>2.9</td> </tr> </table>	富山市	60.6	37.6	1.8	全国(公立)	51.7	45.4	2.9
富山市	60.6	37.6	1.8													
全国(公立)	51.7	45.4	2.9													
3 (6)	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる	○		5A (1) イ	○	○	<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>41.9</td> <td>55.5</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>28.9</td> <td>65.4</td> <td>5.7</td> </tr> </table>	富山市	41.9	55.5	2.6	全国(公立)	28.9	65.4	5.7
富山市	41.9	55.5	2.6													
全国(公立)	28.9	65.4	5.7													

【小学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「活用」に関する問題 主として「知識」に関する問題	学習指導要領の区分等		評価の観点 科学的な思考・表現 観察・実験の技能 自然事象についての知識・理解 自然事象への関心・意欲・態度	問題形式 選択式 短答式 記述式										
				A区分 物質	B区分 生命 地球 エネルギー												
4 (1)	方位についての情報から、観察している方位を選ぶ	方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる	○		4B (4) アウ	○	○		<p>正答率 誤答率 無解答率</p> <table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>47.3</td> <td>51.8</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>41.0</td> <td>57.0</td> <td>2.0</td> </tr> </table>	富山市	47.3	51.8	0.9	全国(公立)	41.0	57.0	2.0
富山市	47.3	51.8	0.9														
全国(公立)	41.0	57.0	2.0														
4 (2)	夕方にみられる月の形と場所を選ぶ	月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解している	○		4B (4) ア	○	○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>57.9</td> <td>41.0</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>56.1</td> <td>41.9</td> <td>2.0</td> </tr> </table>	富山市	57.9	41.0	1.1	全国(公立)	56.1	41.9	2.0
富山市	57.9	41.0	1.1														
全国(公立)	56.1	41.9	2.0														
4 (3)	星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ	星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている	○		4B (4) ウ	○	○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>56.1</td> <td>42.5</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>55.3</td> <td>42.5</td> <td>2.2</td> </tr> </table>	富山市	56.1	42.5	1.4	全国(公立)	55.3	42.5	2.2
富山市	56.1	42.5	1.4														
全国(公立)	55.3	42.5	2.2														
4 (4)	観察した星座や雲の動きを選ぶ	星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析できる	○		4B (4) ウ	○	○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>67.4</td> <td>30.7</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>65.0</td> <td>32.0</td> <td>3.0</td> </tr> </table>	富山市	67.4	30.7	1.9	全国(公立)	65.0	32.0	3.0
富山市	67.4	30.7	1.9														
全国(公立)	65.0	32.0	3.0														
4 (5)	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く	水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	○		4B (3) イ	○	○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>71.0</td> <td>20.5</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>58.5</td> <td>26.3</td> <td>15.2</td> </tr> </table>	富山市	71.0	20.5	8.5	全国(公立)	58.5	26.3	15.2
富山市	71.0	20.5	8.5														
全国(公立)	58.5	26.3	15.2														
4 (6)	地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選ぶ	打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析できる	○		4B (3) イ	○	○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>87.3</td> <td>9.9</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>84.2</td> <td>11.6</td> <td>4.2</td> </tr> </table>	富山市	87.3	9.9	2.8	全国(公立)	84.2	11.6	4.2
富山市	87.3	9.9	2.8														
全国(公立)	84.2	11.6	4.2														

8 中学校3年生 分類区別平均正答率

・以下の集計値は、4月21日に実施した調査の結果を集計した値である。

凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

〔国語A：主として知識〕

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	79.1	78.1	75.8

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	◎	83.5	82.2	79.7
	書くこと	5	◎	80.2	78.2	73.6
	読むこと	5	◎	89.5	88.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	◎	75.2	74.5	72.9
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	—	—
	話す・聞く能力	4	◎	83.5	82.2	79.7
	書く能力	5	◎	80.2	78.2	73.6
	読む能力	5	◎	89.5	88.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	19	◎	75.2	74.5	72.9
問題形式	選択式	23	◎	78.4	77.4	75.5
	短答式	10	◎	80.8	79.6	76.7
	記述式	0	—	—	—	—

〔国語B：主として活用〕

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	69.5	68.2	65.8

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◎	75.4	74.3	72.2
	書くこと	3	◎	40.3	39.3	36.7
	読むこと	6	◎	66.5	65.1	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	—	—	—	—
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	◎	40.3	39.3	36.7
	話す・聞く能力	3	◎	75.4	74.3	72.2
	書く能力	3	◎	40.3	39.3	36.7
	読む能力	6	◎	66.5	65.1	62.6
	言語についての知識・理解・技能	0	—	—	—	—
問題形式	選択式	6	◎	84.0	82.7	80.3
	短答式	0	—	—	—	—
	記述式	3	◎	40.3	39.3	36.7

【中学校3年生】

[数学A：主として知識]

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	68.2	67.1	64.4

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域	数と式	12	◎	70.7	69.7	67.7
	図形	12	◎	67.9	66.7	63.4
	関数	8	◎	67.3	65.4	61.7
	資料の活用	4	◎	63.6	63.6	63.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—	—	—
	数学的な見方や考え方	0	—	—	—	—
	数学的な技能	17	◎	68.7	67.4	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	19	◎	67.8	66.7	63.9
問題形式	選択式	19	◎	68.6	67.2	64.6
	短答式	17	◎	67.8	66.9	64.2
	記述式	0	—	—	—	—

[数学B：主として活用]

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	46.3	44.5	41.6

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域	数と式	4	◎	69.3	66.5	63.2
	図形	4	◎	41.7	40.7	39.0
	関数	5	◎	34.4	32.8	30.7
	資料の活用	2	◎	39.1	37.1	31.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—	—	—
	数学的な見方や考え方	13	◎	46.7	45.1	42.8
	数学的な技能	2	◎	43.7	40.2	34.2
	数量や図形などについての知識・理解	0	—	—	—	—
問題形式	選択式	4	◎	50.9	50.0	47.9
	短答式	4	◎	54.3	51.4	47.4
	記述式	7	◎	39.0	37.3	34.8

【中学校3年生】

【理科】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	60.8	59.2	53.0

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
枠組み	主として「知識」に関する問題	7	◎ 72.2	70.8	63.8
	主として「活用」に関する問題	18	◎ 56.4	54.6	48.8
学習指導要領の分野等	第1分野	物理的領域	◎ 56.6	54.5	48.9
		化学的領域	◎ 63.6	62.2	56.2
	第2分野	生物的領域	◎ 72.0	69.7	62.2
		地学的領域	◎ 52.6	51.8	46.4
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	科学的な思考・表現	18	◎ 56.4	54.6	48.8
	観察・実験の技能	2	◎ 52.6	52.3	46.8
	自然事象についての知識・理解	5	◎ 80.1	78.2	70.6
問題形式	選択式	16	◎ 59.8	58.2	53.1
	短答式	4	◎ 72.4	70.8	61.6
	記述式	5	◎ 55.1	52.9	45.8

9 中学校3年生 設問別結果一覧

【中学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			<input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	解・技能	言語についての知識・理解	選択式		短答式
1-1	スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する	相手の反応を踏まえて話す	1												富山市 94.3 5.6 0.1 全国(公立) 93.0 6.9 0.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1-2	「成否」という言葉、聞いて分かりやすい表現に直す	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	1												富山市 70.5 21.6 7.9 全国(公立) 65.0 23.0 12.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2-1	意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する	意見を支える根拠の明確さについて助言する	1												富山市 84.7 15.2 0.1 全国(公立) 79.8 20.0 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2-2	意見文を直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く	1												富山市 87.9 12.0 0.1 全国(公立) 83.6 16.2 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3-1	用いられている表現の工夫として適切なものを選択する	表現の技法について理解する				1									富山市 61.2 38.5 0.3 全国(公立) 58.3 41.3 0.4 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3-2	一人も返事をしたものがなかった理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	1												富山市 91.5 8.3 0.2 全国(公立) 88.7 11.1 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3-3	嘉助の言動から読み取れる様子として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	2												富山市 92.6 7.2 0.2 全国(公立) 89.8 9.9 0.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4-1	棒グラフの□部分の変化の内容を適切に書く	伝えたい事実を明確に書く	1												富山市 76.4 21.2 2.4 全国(公立) 67.6 28.2 4.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
5-1	「なぜ、排水管はS字形になっているのか。」という問いに対する答えとして適切なものを選択する	文章から適切な情報を得て、考えをまとめる	2												富山市 95.6 4.3 0.1 全国(公立) 93.6 6.2 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> □ 正答率 ▒ 誤答率 ■ 無解答率 </div>
			話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 解・技能 言語についての知識・理	国語への関心・意欲・態度 伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	選択式 短答式 記述式	
6-1	「あす」と「あした」という言葉の意味の変化を整理した表に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて要旨を捉える	1 イ	○	○	富山市: 77.6 (正), 22.3 (誤), 0.1 (無) 全国(公立): 71.3 (正), 28.4 (誤), 0.3 (無)
6-2	文章について説明したものとして適切なものを選択する	表現の特徴を捉える	1 エ	○	○	富山市: 90.4 (正), 9.3 (誤), 0.3 (無) 全国(公立): 87.1 (正), 12.5 (誤), 0.4 (無)
7-1	二つの回答案の構成の違いを説明したものとして適切なものを選択する	伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える	2 イ	○	○	富山市: 75.5 (正), 24.3 (誤), 0.2 (無) 全国(公立): 70.6 (正), 28.7 (誤), 0.7 (無)
7-2	要望を適切に捉え、回答案の冒頭に一文を加える	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	2 ウ	○	○	富山市: 76.3 (正), 18.8 (誤), 4.9 (無) 全国(公立): 66.4 (正), 25.0 (誤), 8.6 (無)
8-1	インタビューをする際の質問の意図として適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら聞き取る	1 エ	○	○	富山市: 87.7 (正), 12.0 (誤), 0.3 (無) 全国(公立): 84.6 (正), 14.8 (誤), 0.6 (無)
8-2	意図に合った質問として適切なものを選択する		1 エ	○	○	富山市: 81.5 (正), 18.2 (誤), 0.3 (無) 全国(公立): 76.1 (正), 23.2 (誤), 0.7 (無)
9-1	漢字を書く(ビョウソク五メートルの風が吹く)		2(1) ウ (イ)	○	○	富山市: 91.1 (正), 7.5 (誤), 1.4 (無) 全国(公立): 88.5 (正), 9.3 (誤), 2.2 (無)
9-2	漢字を書く(地図のシュクシヤクを調べる)	文脈に即して漢字を正しく書く	2(1) ウ (イ)	○	○	富山市: 81.5 (正), 12.8 (誤), 5.7 (無) 全国(公立): 72.1 (正), 17.8 (誤), 10.1 (無)
9-3	漢字を書く(アまったお金を貯金する)		2(1) ウ (イ)	○	○	富山市: 72.1 (正), 15.3 (誤), 12.6 (無) 全国(公立): 70.9 (正), 13.2 (誤), 15.9 (無)
9-2-1	漢字を読む(詳細に述べる)	文脈に即して漢字を正しく読む	2(1) ウ (ア)	○	○	富山市: 82.2 (正), 14.6 (誤), 3.2 (無) 全国(公立): 78.2 (正), 16.7 (誤), 5.1 (無)

【中学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: white;"></div> 正答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: #cccccc;"></div> 誤答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: #808080;"></div> 無解答率 </div>
			話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと	国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 解・技能	選択式 短答式 記述式	
9二2	漢字を読む(シャツの袖をまくる)	文脈に即して漢字を正しく読む	2(1)ウ(7)		○ ○	富山市: 94.9 (誤答率 4.3%) 全国(公立): 94.1 (誤答率 4.7%)
9二3	漢字を読む(学校のことが新聞に載る)		2(1)ウ(7)		○ ○	富山市: 97.7 (誤答率 1.4%) 全国(公立): 97.2 (誤答率 1.5%)
9三ア	適切な語句を選択する(将来は、気象予報士になりたい)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	2(1)イ(4)		○ ○	富山市: 98.2 (誤答率 1.4%) 全国(公立): 97.6 (誤答率 1.9%)
9三イ	適切な語句を選択する(彼がこの討論の口火を切った)		1(1)イ(ウ)		○ ○	富山市: 60.4 (誤答率 39.0%) 全国(公立): 55.5 (誤答率 43.6%)
9三ウ	適切な敬語を選択する(私が先生のお宅に参ります)		2(1)イ(7)		○ ○	富山市: 87.0 (誤答率 12.5%) 全国(公立): 84.1 (誤答率 15.2%)
9三エ	適切な語句を選択する(彼女は、学級の縁の下の力持ちと言える存在だ)		1(1)イ(ウ)		○ ○	富山市: 74.7 (誤答率 24.7%) 全国(公立): 70.8 (誤答率 28.4%)
9三オ	適切な語句を選択する(たなびく雲の間から、春の光がもれている)		1(1)イ(ウ)		○ ○	富山市: 48.3 (誤答率 51.2%) 全国(公立): 49.0 (誤答率 50.3%)
9三カ	適切な語句を選択する(新聞を読む習慣を身に付ける)		2(1)イ(イ)		○ ○	富山市: 89.7 (誤答率 9.7%) 全国(公立): 86.9 (誤答率 12.2%)
9四①			1(1)イ(エ)		○ ○	富山市: 62.3 (誤答率 37.1%) 全国(公立): 62.3 (誤答率 36.8%)
9四②	「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する		1(1)イ(エ)		○ ○	富山市: 34.2 (誤答率 65.1%) 全国(公立): 33.7 (誤答率 65.2%)

【中学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			<input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解	選択式		短答式
95	運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択する	毛筆を用いて、楷書で文字を書く			1(2) ア						○	○	富山市: 87.0 (正答率), 12.5 (誤答率), 0.5 (無解答率) 全国(公立): 85.9 (正答率), 13.3 (誤答率), 0.8 (無解答率)
96	手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する	手紙の書き方を理解して書く			1(2) ア						○	○	富山市: 60.5 (正答率), 38.8 (誤答率), 0.7 (無解答率) 全国(公立): 58.2 (正答率), 40.6 (誤答率), 1.2 (無解答率)
971	漫画の言葉に対応する部分として適切なものを古典の文章の中から選択する	漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像する			2(1) ア (イ)						○	○	富山市: 79.2 (正答率), 19.9 (誤答率), 0.9 (無解答率) 全国(公立): 75.3 (正答率), 23.3 (誤答率), 1.4 (無解答率)
972	古典の作品名を漢字で書く	代表的な古典の作品に関心をもつ			1(1) ア (イ)						○	○	富山市: 65.8 (正答率), 26.5 (誤答率), 7.7 (無解答率) 全国(公立): 66.7 (正答率), 23.4 (誤答率), 9.9 (無解答率)

【中学校 国語B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> □ 正答率 ▨ 誤答率 ■ 無解答率 </div>
			話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解	選択式 短答式 記述式	
1ー	ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する	状況に応じて、資料を活用して話す	2 ウ	○	○	富山市: 正答率 77.9, 誤答率 22.0, 無解答率 0.1 全国(公立): 正答率 73.2, 誤答率 26.6, 無解答率 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1二	フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する	効果的な資料を作成し、活用して話す	2 ウ	○	○	富山市: 正答率 90.1, 誤答率 9.5, 無解答率 0.4 全国(公立): 正答率 87.3, 誤答率 12.3, 無解答率 0.4 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1三	演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	2 1 ウ ウ	○ ○ ○	○	富山市: 正答率 58.2, 誤答率 39.9, 無解答率 1.9 全国(公立): 正答率 56.2, 誤答率 41.0, 無解答率 2.8 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2ー	ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて文章を要約する	1 イ		○	富山市: 正答率 85.6, 誤答率 14.2, 無解答率 0.2 全国(公立): 正答率 82.6, 誤答率 17.1, 無解答率 0.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2二	雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的部分などを読み分け、要旨を捉える	1 イ		○	富山市: 正答率 73.3, 誤答率 26.4, 無解答率 0.3 全国(公立): 正答率 67.8, 誤答率 31.9, 無解答率 0.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2三	資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていききたいか、自分の考えを書く	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く	2 2 ウ オ	○ ○ ○	○	富山市: 正答率 30.4, 誤答率 66.8, 無解答率 2.8 全国(公立): 正答率 23.0, 誤答率 73.3, 無解答率 3.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3ー	「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ	1 エ		○	富山市: 正答率 91.8, 誤答率 7.8, 無解答率 10.9 全国(公立): 正答率 88.6, 誤答率 10.9, 無解答率 0.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3二	「あたりは……良かった。」の説明として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ	2 ウ		○	富山市: 正答率 85.5, 誤答率 14.2, 無解答率 0.3 全国(公立): 正答率 82.6, 誤答率 16.7, 無解答率 0.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3三	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く	1 2 ウ ウ	○ ○ ○	○	富山市: 正答率 32.3, 誤答率 61.2, 無解答率 6.5 全国(公立): 正答率 31.1, 誤答率 57.7, 無解答率 11.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校 数学A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点					問題形式		正答率	誤答率	無解答率	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な技能	数学的知識・理解	数や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式					
1 (1)	12:9と等しい比を選ぶ	比の意味を理解している	小6 数量 (1)															
1 (2)	$12 - 2 \times (-6)$ を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	1 (1) ウ															
1 (3)	aが正の数のとき、 $a \times (-2)$ の計算の結果について、正しい記述を選ぶ	正の数と負の数の乗法について理解している	1 (1) イ															
1 (4)	ある日の最低気温を基準にして、その前日の最低気温との差から、前日の最低気温を求める	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	1 (1) ア、エ															
2 (1)	$5x - x$ を計算する	一次式の減法の計算ができる	1 (2) ウ															
2 (2)	赤いテープの長さがa cmで、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍のとき、白いテープの長さをaを用いた式で表す	数量の関係を文字式に表すことができる	1 (2) エ															
2 (3)	等式 $2x - y = 5$ をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができる	2 (1) ウ															
2 (4)	連続する3つの整数のうち最も小さい整数をnとすると、それらの和が中央の整数の3倍になることを、nを用いた式で表す	文字を用いた式で数量の関係を説明するための構想を理解している	2 (1) イ															
3 (1)	一元一次方程式 $7x = 5x + 4$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している	1 (3) イ															
3 (2)	一元一次方程式 $1.2x - 6 = 0.5x + 1$ を解く	小数を含む一元一次方程式を解くことができる	1 (3) ウ															

【中学校 数学A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な技能	数学的知識・理解	数値や図形などについての選択式	短答式	記述式
3 (3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶ	具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる	2 (2) ウ				○	○				<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> 正答率 誤答率 無解答率 </div>
3 (4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 4x + 2y = 5 \\ x + y = 2 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2 (2) ウ				○	○				
4 (1)	垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ	垂線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	1 (1) ア				○	○				
4 (2)	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に 4 cm 平行移動した図形をかく	平行移動した図形をかきことができる	1 (1) イ				○	○				
5 (1)	直方体において、与えられた辺に垂直な面を書く	空間における直線と平面の垂直について理解している	1 (2) ア				○	○				
5 (2)	直角三角形の斜辺を軸として回転させてできる立体を選ぶ	直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解している	1 (2) イ				○	○				
5 (3)	与えられた投影図から立体を読み取り、その立体を選ぶ	与えられた投影図から空間図形を読み取ることができる	1 (2) イ				○	○				
5 (4)	与えられた式で体積が求められる立体を全て選ぶ	与えられた式を用いて体積を求めることができる立体を理解している	1 (2) ウ				○	○				
6 (1)	同位角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	同位角の意味を理解している	2 (1) ア				○	○				
6 (2)	四角形を五角形に変えたときの、内角の和の変化について正しい記述を選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している	2 (1) イ				○	○				

【中学校 数学A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域		評価の観点		問題形式			正答率	誤答率	無解答率
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学的知識・技能	数学的見方や考え方の活用	数量や図形などについての知識・理解			
7 (1)	ひし形 ABCD において、AC ⊥ BD が表す性質を選ぶ	ひし形の「対角線は垂直に交わる」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることができる	2 (2) ウ									
7 (2)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2 (2) ア									
7 (3)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している	2 (2) ウ									
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性と意味を理解している	2 (1) ア (2) イ									
9	y が x の関数でない事象を選ぶ	関数の意味を理解している	1 (1) ア									
10 (1)	反比例のグラフを選ぶ	反比例のグラフが x 軸、y 軸に限りなく近づく2つのなめらかな曲線であることを理解している	1 (1) エ									
10 (2)	比例 $y = 2x$ のグラフ上の点 A の x 座標が 3 のときの y 座標を求める	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点の x 座標を基に y 座標を求めることができる	1 (1) ウ、エ									
10 (3)	比例のグラフから、x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、x の変域に対応する y の変域を求めることができる	1 (1) エ									
11	一次関数の表から、x と y の関係を表した式を選ぶ	一次関数の表から、x と y の関係を式で表すことができる	2 (1) イ									
12 (1)	時間と道のりの関係を表すグラフから、速さが最も速い区間を選ぶ	時間と道のりの関係を表すグラフについて、グラフの傾きが速さを表すことを理解している	2 (1) イ									

【中学校 数学A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の技能	数学的知識・理解	数値や図形などについての知識・技能	選択式	短答式	記述式					
12 (2)	時間と道のりの関係を表すグラフを基に、出発してから15分後にいる地点までの家からの道のりを求める	時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読み取ることができる			2 (1) イ				○			○						富山市 89.1 5.4 全国(公立) 83.8 7.7 8.5
13	二元一次方程式 $x+y=3$ の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ	二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している			2 (1) ウ				○			○						富山市 42.3 56.1 1.6 全国(公立) 37.9 59.8 2.3
14 (1)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる			1 (1) ア				○			○						富山市 40.1 53.1 6.8 全国(公立) 46.0 44.3 9.7
14 (2)	度数分布表について、ある階級の度数を求める	与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる			1 (1) ア				○			○						富山市 79.2 14.3 6.5 全国(公立) 75.9 14.7 9.4
15 (1)	セットメニューの選び方の総数を求める	起こり得る場合を順序よく整理し、場合の数を求めることができる			小6 数量 (5)				○			○						富山市 79.8 16.6 3.6 全国(公立) 74.8 20.0 5.2
15 (2)	さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している			2 (1) ア				○			○						富山市 55.1 43.2 1.7 全国(公立) 55.4 42.5 2.1

【中学校 数学B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> □ 正答率 ▒ 誤答率 ■ 無解答率 </div>
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の技能	数学的知識・理解	選択式	短答式	
1 (1)	投影距離と投影画面の高さの関係を式で表す	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる			1 (1)エオ			○			○	富山市: 36.3 (正), 48.4 (誤), 15.3 (無) 全国(公立): 29.3 (正), 49.6 (誤), 21.1 (無)
1 (2)	投影画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投影距離を選ぶ	必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる			1 (1)エオ			○			○	富山市: 36.4 (正), 62.8 (誤), 0.8 (無) 全国(公立): 35.1 (正), 64.0 (誤), 0.9 (無)
1 (3)	映像の明るさを2倍にするための投影画面の面積の替え方を選び、その理由を説明する	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる			1 (1)エオ			○			○	富山市: 13.9 (正), 81.7 (誤), 4.4 (無) 全国(公立): 11.7 (正), 82.7 (誤), 5.6 (無)
2 (1)	連続する3つの整数が19, 20, 21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる			2 (1)イウ			○			○	富山市: 82.9 (正), 13.1 (誤), 4.0 (無) 全国(公立): 78.8 (正), 15.2 (誤), 6.0 (無)
2 (2)	連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成させる	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる			2 (1)イウ			○			○	富山市: 50.5 (正), 31.5 (誤), 18.0 (無) 全国(公立): 43.1 (正), 32.9 (誤), 24.0 (無)
2 (3)	連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる			2 (1)イウ			○			○	富山市: 71.0 (正), 15.4 (誤), 13.6 (無) 全国(公立): 63.8 (正), 16.8 (誤), 19.4 (無)
3 (1)	ポップアップカードを90°に開いたとき、四角形EFGHが正方形になる場合のEFの長さを求める	平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を的確に捉えることができる			1 (2)イウ			○			○	富山市: 47.0 (正), 47.6 (誤), 5.4 (無) 全国(公立): 42.6 (正), 48.7 (誤), 8.7 (無)
3 (2)	四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる			1 (2)イウ			○			○	富山市: 22.1 (正), 41.1 (誤), 36.8 (無) 全国(公立): 21.2 (正), 30.6 (誤), 48.2 (無)
4 (1)	証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができる			2 (2)アウ			○			○	富山市: 46.6 (正), 52.6 (誤), 0.8 (無) 全国(公立): 42.5 (正), 56.3 (誤), 1.2 (無)
4 (2)	正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても、AE=CFとなることの証明を完成させる	発展的に考え、条件を変えた場合についての証明を完成させることができる			2 (2)イウ			○			○	富山市: 50.9 (正), 34.8 (誤), 14.3 (無) 全国(公立): 49.6 (正), 31.8 (誤), 18.6 (無)

【中学校 数学B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> □ 正答率 ▒ 誤答率 ■ 無解答率 </div>									
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の技能	数学的知識・理解	数量や図形などについての知識・技能	選択式		短答式	記述式							
5 (1)	1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答える	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる			小5 数量 (3) 1 (1) 4								<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>富山市</td> <td>51.1</td> <td>32.3</td> <td>16.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>39.1</td> <td>34.1</td> <td>26.8</td> </tr> </table> </div> <div>0% 20% 40% 60% 80% 100%</div> </div>	富山市	51.1	32.3	16.6	全国(公立)	39.1	34.1	26.8
富山市	51.1	32.3	16.6																		
全国(公立)	39.1	34.1	26.8																		
5 (2)	2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言いきれないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1 (1) 4								<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>富山市</td> <td>27.1</td> <td>53.1</td> <td>19.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>23.3</td> <td>47.0</td> <td>29.7</td> </tr> </table> </div> <div>0% 20% 40% 60% 80% 100%</div> </div>	富山市	27.1	53.1	19.8	全国(公立)	23.3	47.0	29.7
富山市	27.1	53.1	19.8																		
全国(公立)	23.3	47.0	29.7																		
5 (3)	記名のある落とし物を1個1点、ない落とし物を1個2点として集計するとき、表彰する学級の決め方として正しい記述を選ぶ	振り返って立てられた構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を解釈することができる			2 (1) 4								<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>富山市</td> <td>72.6</td> <td>26.6</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>67.3</td> <td>31.2</td> <td>1.5</td> </tr> </table> </div> <div>0% 20% 40% 60% 80% 100%</div> </div>	富山市	72.6	26.6	0.8	全国(公立)	67.3	31.2	1.5
富山市	72.6	26.6	0.8																		
全国(公立)	67.3	31.2	1.5																		
6 (1)	中心角の大きさxと半径の長さyの間にある関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断できる			2 (1) 4								<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>富山市</td> <td>48.2</td> <td>51.1</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>46.5</td> <td>52.2</td> <td>1.3</td> </tr> </table> </div> <div>0% 20% 40% 60% 80% 100%</div> </div>	富山市	48.2	51.1	0.7	全国(公立)	46.5	52.2	1.3
富山市	48.2	51.1	0.7																		
全国(公立)	46.5	52.2	1.3																		
6 (2)	底面になる円の半径の長さが8cmのとき、表や式から、側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する	与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる			2 (1) 4								<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>富山市</td> <td>37.2</td> <td>48.0</td> <td>14.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>30.8</td> <td>52.1</td> <td>17.1</td> </tr> </table> </div> <div>0% 20% 40% 60% 80% 100%</div> </div>	富山市	37.2	48.0	14.8	全国(公立)	30.8	52.1	17.1
富山市	37.2	48.0	14.8																		
全国(公立)	30.8	52.1	17.1																		

【中学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の分野等		評価の観点		問題形式																
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	第1分野	第2分野	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式												
2 (3)	湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善する	他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる	○			(4) イ ア	○			○			<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> □ 正答率 ▒ 誤答率 ■ 無解答率 </div> <table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>正答率</th> <th>誤答率</th> <th>無解答率</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>21.3</td> <td>73.8</td> <td>4.9</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>14.5</td> <td>78.8</td> <td>6.7</td> </tr> </table>	地域	正答率	誤答率	無解答率	富山市	21.3	73.8	4.9	全国(公立)	14.5	78.8	6.7
地域	正答率	誤答率	無解答率																						
富山市	21.3	73.8	4.9																						
全国(公立)	14.5	78.8	6.7																						
2 (4)	上空を飛行中の飛行機内の菓子袋の膨らみを検証する実験について、空気を抜く操作に対応する飛行機の状態を推論する	気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画することができる	○		(1) イ ア	(4) イ ア	○		○			<table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>正答率</th> <th>誤答率</th> <th>無解答率</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>68.1</td> <td>31.6</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>62.2</td> <td>37.3</td> <td>0.5</td> </tr> </table>	地域	正答率	誤答率	無解答率	富山市	68.1	31.6	0.3	全国(公立)	62.2	37.3	0.5	
地域	正答率	誤答率	無解答率																						
富山市	68.1	31.6	0.3																						
全国(公立)	62.2	37.3	0.5																						
3 (1)	13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い湿度を選ぶ	露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘することができる	○			(4) ア イ ア	○		○			<table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>正答率</th> <th>誤答率</th> <th>無解答率</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>48.5</td> <td>51.0</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>36.5</td> <td>62.9</td> <td>0.6</td> </tr> </table>	地域	正答率	誤答率	無解答率	富山市	48.5	51.0	0.5	全国(公立)	36.5	62.9	0.6	
地域	正答率	誤答率	無解答率																						
富山市	48.5	51.0	0.5																						
全国(公立)	36.5	62.9	0.6																						
3 (2)	上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶ	一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験を計画することができる	○			(4) イ ア	○		○			<table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>正答率</th> <th>誤答率</th> <th>無解答率</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>44.8</td> <td>54.6</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>39.0</td> <td>60.2</td> <td>0.8</td> </tr> </table>	地域	正答率	誤答率	無解答率	富山市	44.8	54.6	0.6	全国(公立)	39.0	60.2	0.8	
地域	正答率	誤答率	無解答率																						
富山市	44.8	54.6	0.6																						
全国(公立)	39.0	60.2	0.8																						
4 (1)	実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの、像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ	凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘することができる	○		(1) ア イ		○		○			<table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>正答率</th> <th>誤答率</th> <th>無解答率</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>51.6</td> <td>48.0</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>43.7</td> <td>55.7</td> <td>0.6</td> </tr> </table>	地域	正答率	誤答率	無解答率	富山市	51.6	48.0	0.4	全国(公立)	43.7	55.7	0.6	
地域	正答率	誤答率	無解答率																						
富山市	51.6	48.0	0.4																						
全国(公立)	43.7	55.7	0.6																						
4 (2)	ヒトの「目のレンズと網膜の距離はほぼ変わらない」という条件に合う方法を選ぶ	他者の考えた実験の方法を検討して改善し、適切な方法を説明することができる	○		(1) ア イ		○		○			<table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>正答率</th> <th>誤答率</th> <th>無解答率</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>55.9</td> <td>43.2</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>50.3</td> <td>48.6</td> <td>1.1</td> </tr> </table>	地域	正答率	誤答率	無解答率	富山市	55.9	43.2	0.9	全国(公立)	50.3	48.6	1.1	
地域	正答率	誤答率	無解答率																						
富山市	55.9	43.2	0.9																						
全国(公立)	50.3	48.6	1.1																						
5 (1)	抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める	オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	○		(3) ア イ			○	○			<table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>正答率</th> <th>誤答率</th> <th>無解答率</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>71.0</td> <td>19.5</td> <td>9.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>59.6</td> <td>24.8</td> <td>15.6</td> </tr> </table>	地域	正答率	誤答率	無解答率	富山市	71.0	19.5	9.5	全国(公立)	59.6	24.8	15.6	
地域	正答率	誤答率	無解答率																						
富山市	71.0	19.5	9.5																						
全国(公立)	59.6	24.8	15.6																						
5 (2)	電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明する	技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入切りによる磁界の変化を説明することができる	○		(3) イ ア		○		○			<table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>正答率</th> <th>誤答率</th> <th>無解答率</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>66.9</td> <td>13.2</td> <td>19.9</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>56.8</td> <td>12.5</td> <td>30.7</td> </tr> </table>	地域	正答率	誤答率	無解答率	富山市	66.9	13.2	19.9	全国(公立)	56.8	12.5	30.7	
地域	正答率	誤答率	無解答率																						
富山市	66.9	13.2	19.9																						
全国(公立)	56.8	12.5	30.7																						
6 (1)	音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠として、正しいものを選ぶ	日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することができる	○		(1) ア イ		○		○			<table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>正答率</th> <th>誤答率</th> <th>無解答率</th> </tr> <tr> <td>富山市</td> <td>47.6</td> <td>51.9</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>40.1</td> <td>59.1</td> <td>0.8</td> </tr> </table>	地域	正答率	誤答率	無解答率	富山市	47.6	51.9	0.5	全国(公立)	40.1	59.1	0.8	
地域	正答率	誤答率	無解答率																						
富山市	47.6	51.9	0.5																						
全国(公立)	40.1	59.1	0.8																						

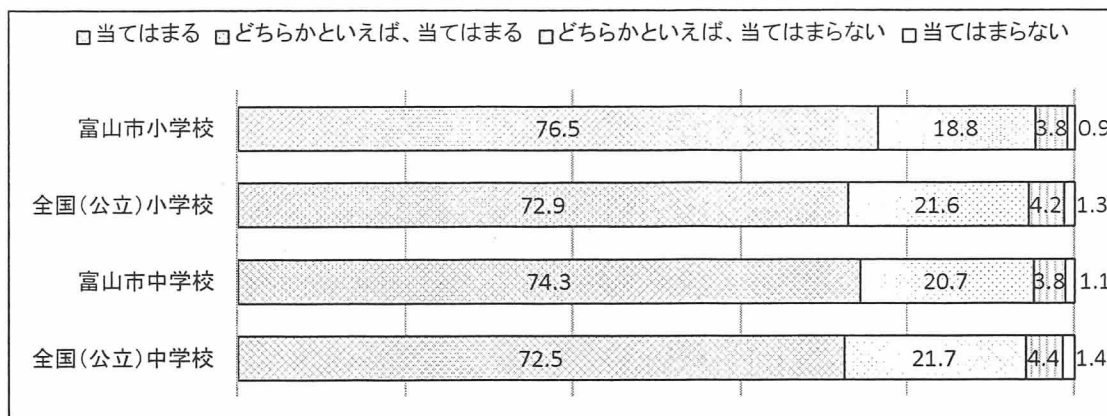
【中学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の分野等		評価の観点			問題形式											
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	第1分野	第2分野	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式								
6 (2)	音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ	音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することができる	○		(1) ア(ウ)			○		○			<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>□ 正答率</div> <div>▨ 誤答率</div> <div>■ 無解答率</div> </div> <table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>35.0</td> <td>64.4</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>29.9</td> <td>69.1</td> <td>1.0</td> </tr> </table>	富山市	35.0	64.4	0.6	全国(公立)	29.9	69.1	1.0
富山市	35.0	64.4	0.6																		
全国(公立)	29.9	69.1	1.0																		
7 (1)	消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ	デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる	○		(3) イ(フ)			○	○				<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>81.6</td> <td>17.8</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>72.2</td> <td>26.9</td> <td>0.9</td> </tr> </table>	富山市	81.6	17.8	0.6	全国(公立)	72.2	26.9	0.9
富山市	81.6	17.8	0.6																		
全国(公立)	72.2	26.9	0.9																		
7 (2)	キウイフルーツがゼラチンや寒天を分解する働きを説明した記述として適切なものを選ぶ	実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツはゼラチンを分解することを指摘することができる	○		(3) イ(フ)			○	○				<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>82.1</td> <td>17.1</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>76.4</td> <td>22.5</td> <td>1.1</td> </tr> </table>	富山市	82.1	17.1	0.8	全国(公立)	76.4	22.5	1.1
富山市	82.1	17.1	0.8																		
全国(公立)	76.4	22.5	1.1																		
7 (3)	キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する	見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができる	○		(3) イ(フ)			○		○			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>68.6</td> <td>12.7</td> <td>18.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>57.3</td> <td>14.9</td> <td>27.8</td> </tr> </table>	富山市	68.6	12.7	18.7	全国(公立)	57.3	14.9	27.8
富山市	68.6	12.7	18.7																		
全国(公立)	57.3	14.9	27.8																		
8 (1)	背骨のある動物の名称を答える	背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる	○		(3) ウ(フ)			○	○				<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>79.7</td> <td>14.8</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>63.9</td> <td>25.7</td> <td>10.4</td> </tr> </table>	富山市	79.7	14.8	5.5	全国(公立)	63.9	25.7	10.4
富山市	79.7	14.8	5.5																		
全国(公立)	63.9	25.7	10.4																		
8 (2)	えらぶたの開閉回数の平均値を求める理由として適切なものを選ぶ	平均値を求める場面において、平均値を求める理由を説明することができる	○		(3) イ(フ)			○	○				<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>63.8</td> <td>35.4</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>55.7</td> <td>42.9</td> <td>1.4</td> </tr> </table>	富山市	63.8	35.4	0.8	全国(公立)	55.7	42.9	1.4
富山市	63.8	35.4	0.8																		
全国(公立)	55.7	42.9	1.4																		
8 (3)	課題に対して適切な(課題に正対した)考察になるよう修正する	他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な(課題に正対した)考察を記述することができる	○		(3) イ(フ)			○		○			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>56.5</td> <td>27.3</td> <td>16.2</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>47.4</td> <td>27.1</td> <td>25.5</td> </tr> </table>	富山市	56.5	27.3	16.2	全国(公立)	47.4	27.1	25.5
富山市	56.5	27.3	16.2																		
全国(公立)	47.4	27.1	25.5																		

IV 児童生徒質問調査（★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問）

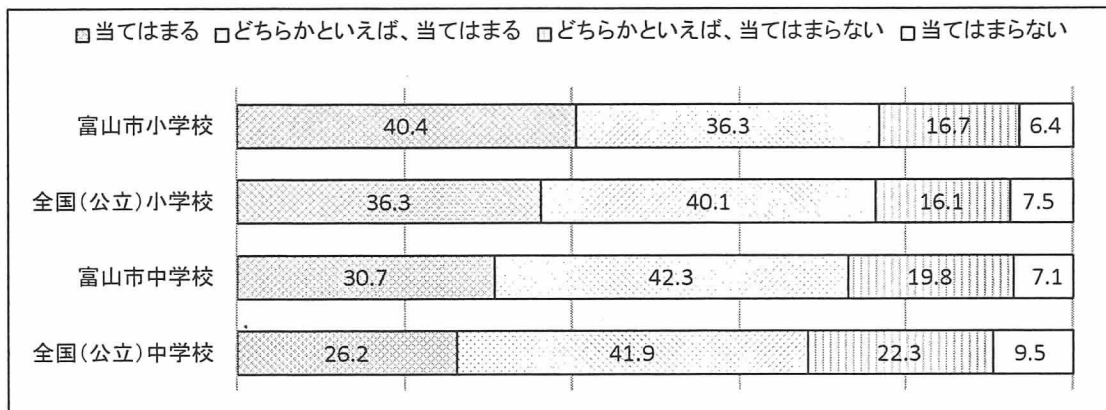
【自尊感情】

1 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



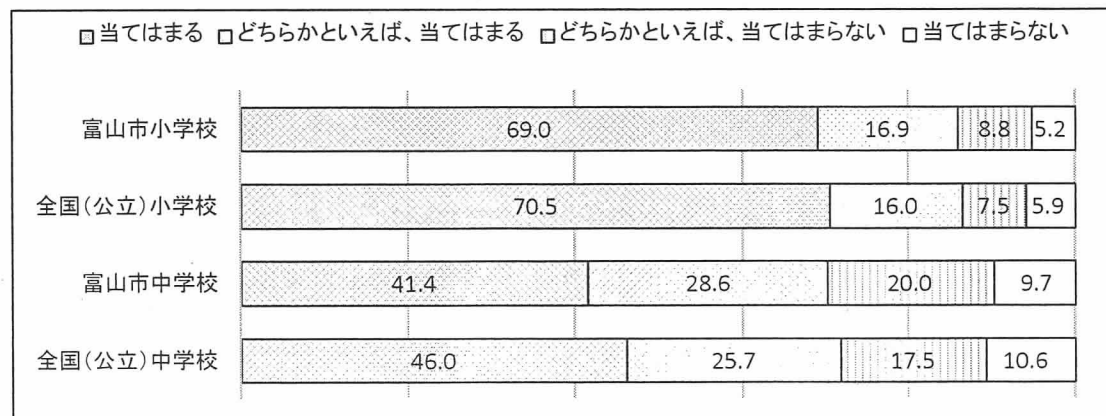
※ 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「どちらかといえば、ある」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

2 自分には、よいところがあると思いますか。



※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや高い。

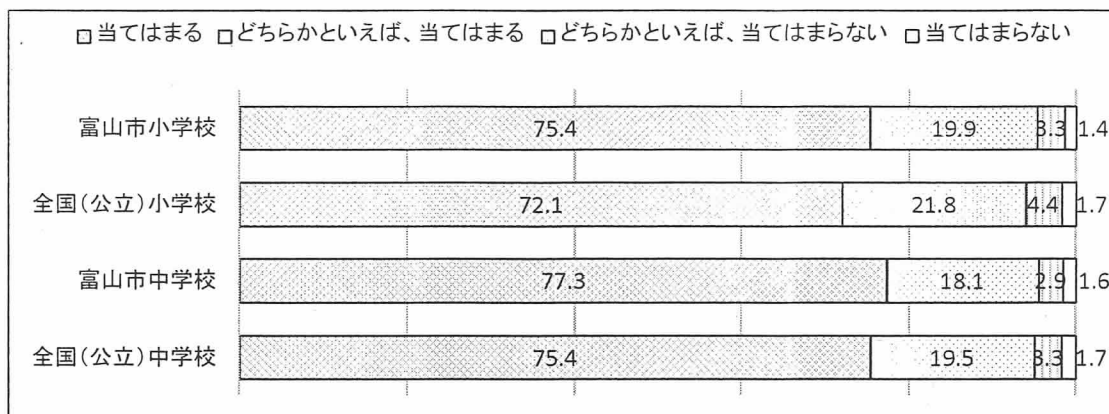
3 将来の夢や目標を持っていますか。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

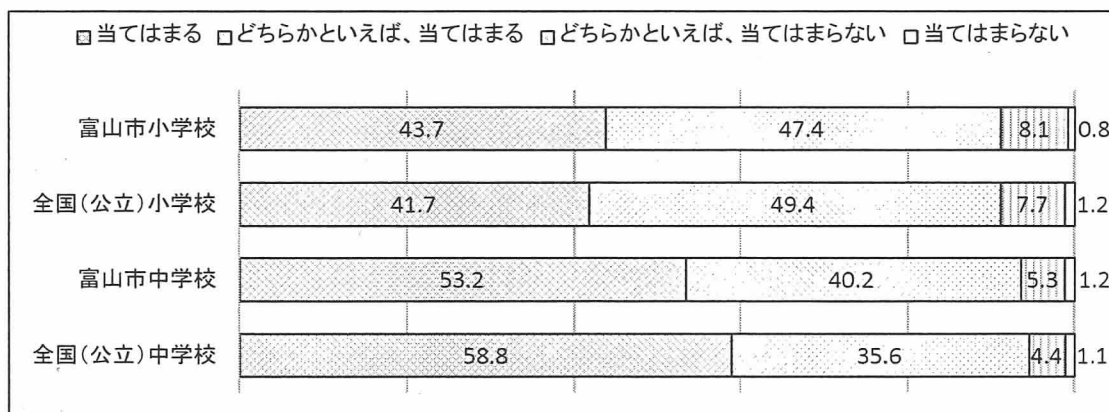
【規範意識】

4 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



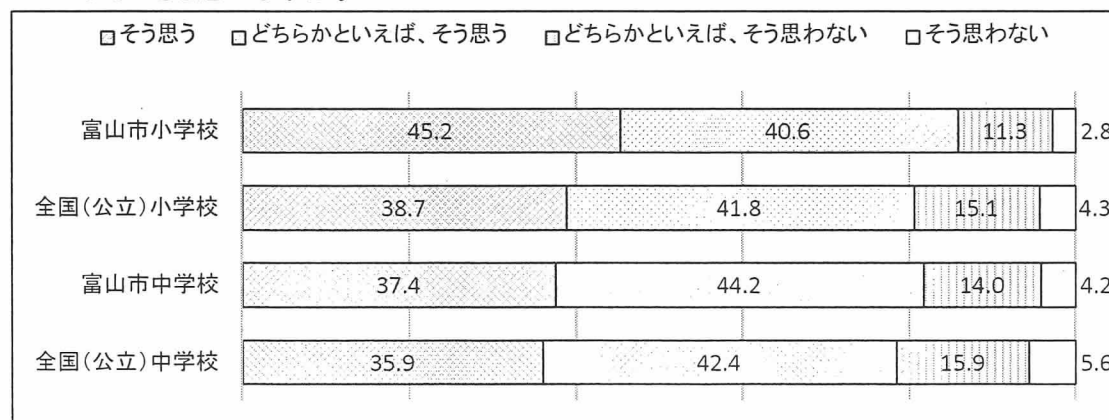
※ 「人の気持ちが分かる人間になりたい」「どちらかといえば、なりたい」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

5 学校のきまり(規則)を守っていますか。



※ 「学校のきまり(規則)を守っている」「どちらかといえば、守っている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

6 ★ あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思いますか。



※ 「友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童の割合は全国より高く、生徒の割合はやや高い。

【授業での活動】

7 授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

富山市小学校	53.6	32.1	11.7	2.4
全国(公立)小学校	57.5	28.8	10.3	3.3
富山市中学校	43.2	37.8	14.5	4.4
全国(公立)中学校	41.9	37.8	15.7	4.6

※ 「目標が示されていたと思う」「どちらかといえば、示されたと思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

8 ★ 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか。

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

富山市小学校	62.9	21.8	10.9	4.3
全国(公立)小学校	66.6	20.5	8.7	4.1
富山市中学校	37.6	34.9	19.0	8.2
全国(公立)中学校	39.3	34.4	18.4	7.6

※ 「ノートに目標とまとめを書いていたと思う」「どちらかといえば、書いていたと思う」児童の割合は、全国よりやや低く、生徒の割合はほぼ同じである。

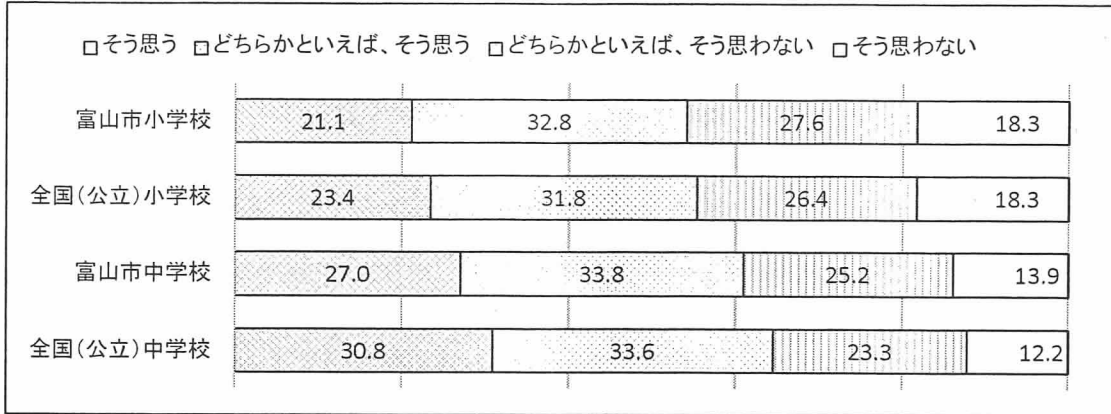
9 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

富山市小学校	39.9	36.3	19.2	4.6
全国(公立)小学校	38.9	36.4	18.7	5.8
富山市中学校	16.7	38.5	34.1	10.6
全国(公立)中学校	19.4	39.9	31.6	8.9

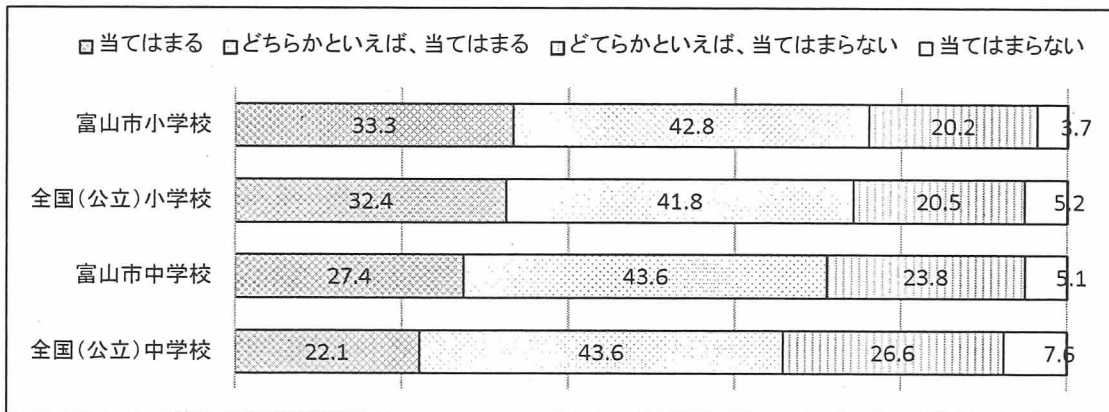
※ 「振り返る活動をよく行っていたと思う」「どちらかといえば、行っていたと思う」児童の割合は全国とほぼ同じであるが、生徒の割合はやや低い。

10 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。



※ 「どちらかといえば、難しいと思わない」「難しいと思わない」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや高い。

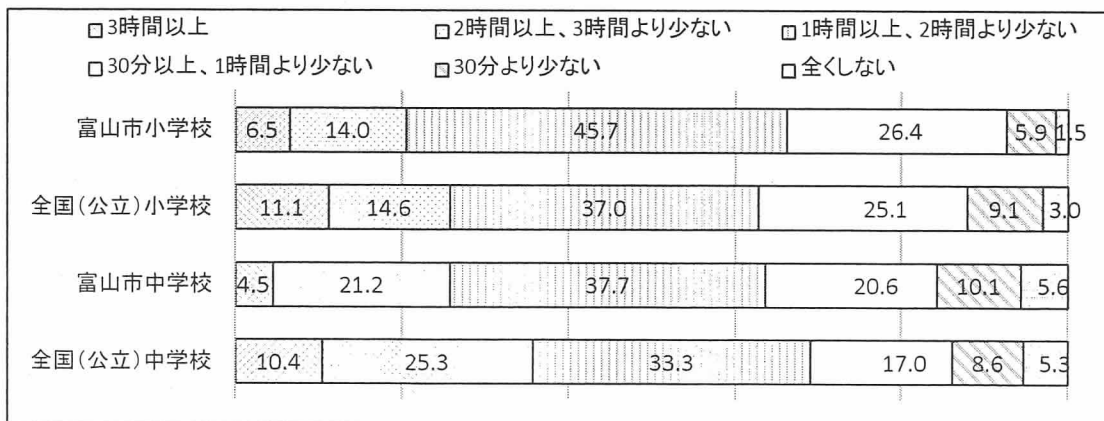
11 ★ 授業では、学級やグループの中で自分たちの課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。



※ 「自分たちで課題を立て、情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合は高い。

【家庭学習】

12 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1時間以上勉強している」児童の割合は全国よりやや高く、生徒の割合は低い。

13 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。

	□2時間以上	□1時間以上、2時間より少ない	□30分以上、1時間より少ない	□10分以上、30分より少ない	□10分より少ない	□全くしない
富山市小学校	7.2	10.4	22.5	29.0	14.7	16.2
全国(公立)小学校	7.5	10.1	20.1	26.5	15.8	19.9
富山市中学校	6.3	9.7	16.1	19.6	11.7	36.5
全国(公立)中学校	6.3	8.7	15.6	21.6	12.7	35.0

※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、家や図書館で30分以上読書をしている」児童の割合は全国よりやや高く、生徒の割合はほぼ同じである。

【家庭での生活】

14 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。

	□している	□どちらかといえば、している	□あまりしていない	□全くしていない
富山市小学校	53.3	26.7	15.5	4.4
全国(公立)小学校	53.2	26.3	15.9	4.5
富山市中学校	44.1	31.2	19.0	5.6
全国(公立)中学校	43.6	30.1	20.0	6.3

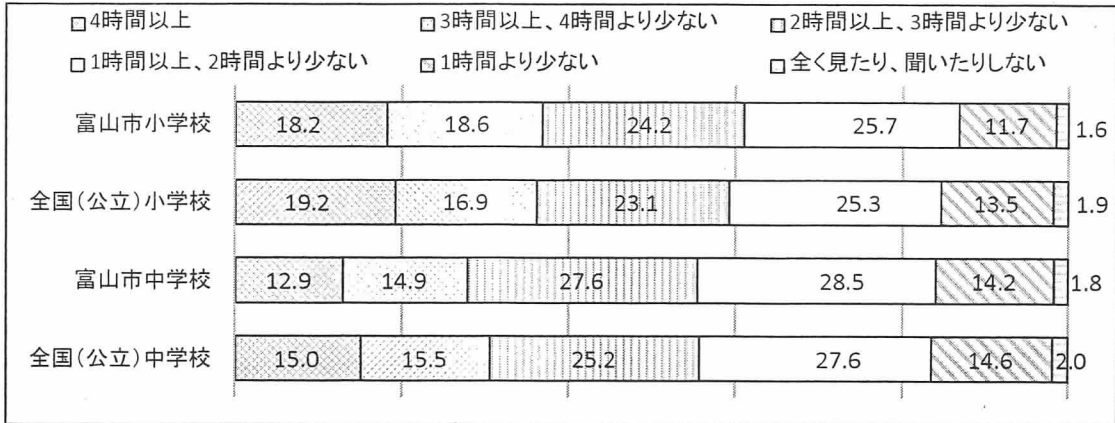
※ 「家の人と話をよくしている」「どちらかといえば、している」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

15 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

	□している	□どちらかといえば、している	□あまりしていない	□全くしていない
富山市小学校	36.3	42.6	17.7	3.2
全国(公立)小学校	39.2	40.3	16.6	3.9
富山市中学校	31.6	44.1	20.1	4.1
全国(公立)中学校	31.4	43.8	19.7	5.0

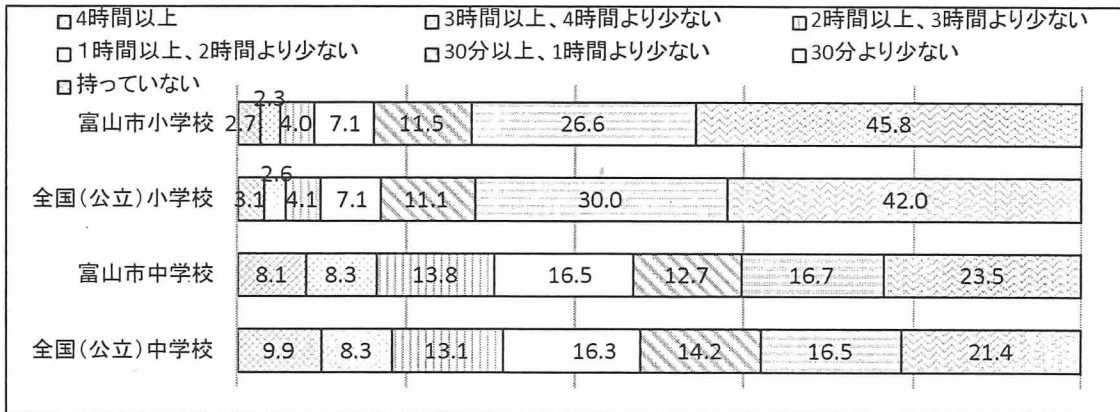
※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

16 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。



※ 「2時間より少ない」「全く見たり、聞いたりしない」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

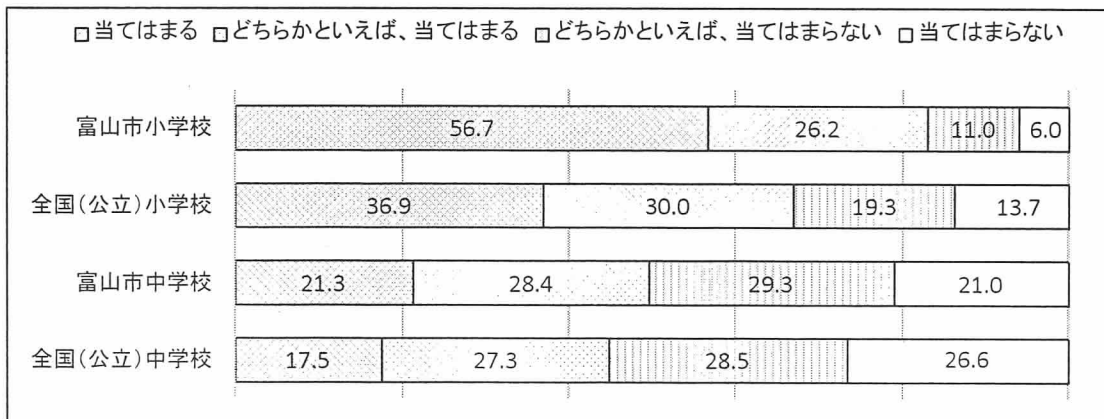
17 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



※ 「メールやインターネットをする時間が30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや高い。

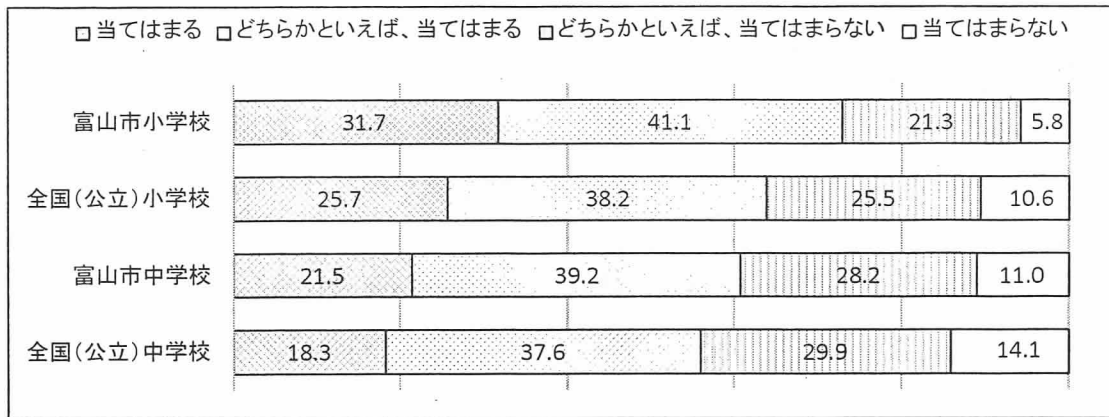
【地域や社会に対する興味・関心】

18 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



※ 「地域の行事に参加している」「どちらかといえば、している」児童の割合は全国よりかなり高く、生徒の割合はやや高い。

19 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。



※ 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「どちらかといえば、関心がある」児童の割合は高く、生徒の割合はやや高い。

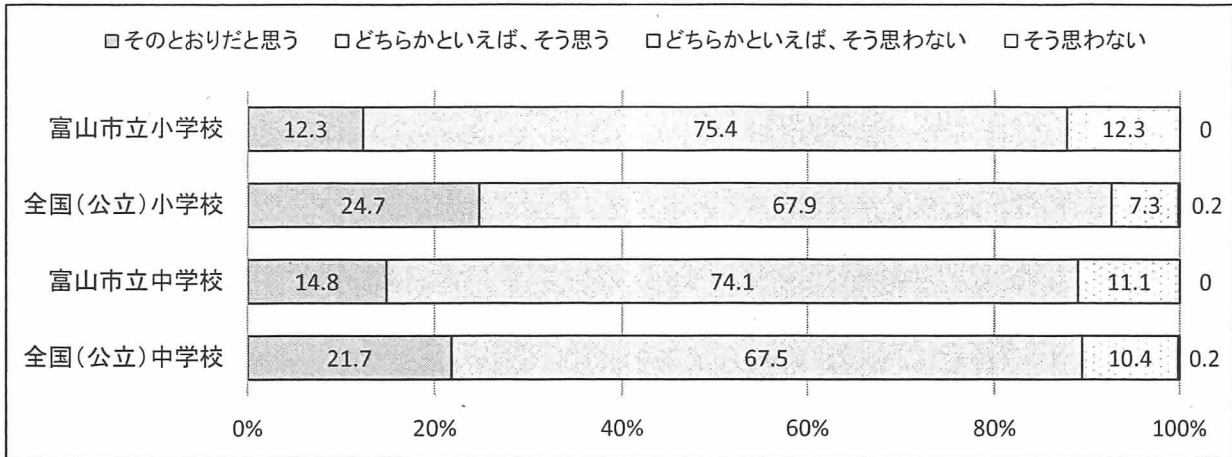
V 学校質問紙

(★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

※ その他・無回答は、データに含んでいない。

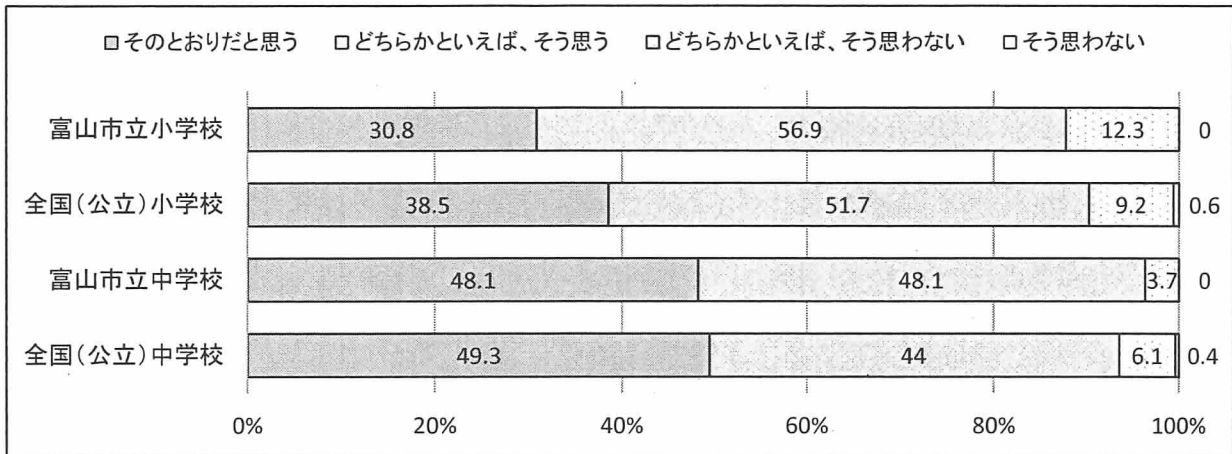
【児童・生徒】

1 児童生徒は熱意をもって勉強している。



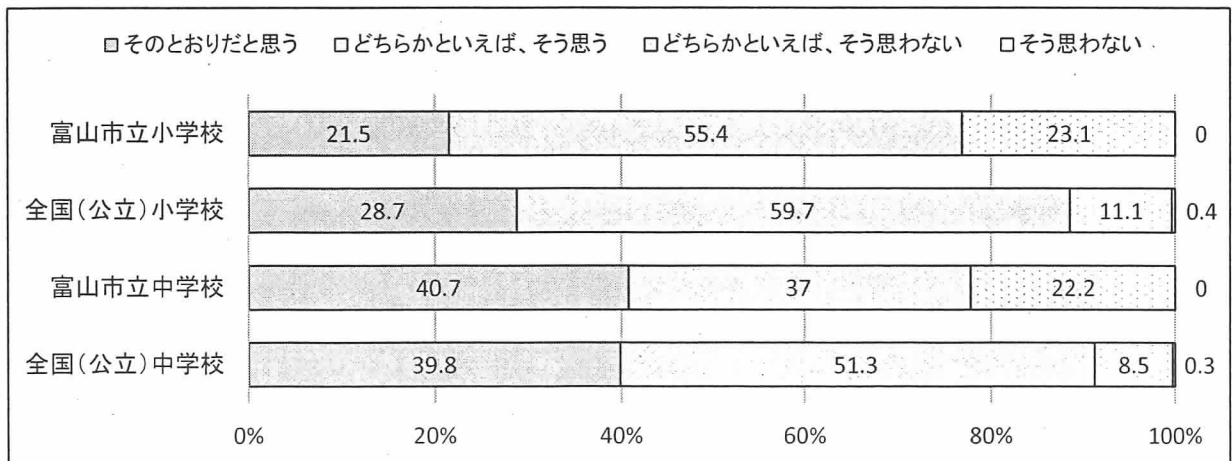
※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校はほぼ同じである。

2 授業中の私語が少なく、落ち着いている。



※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや高い。

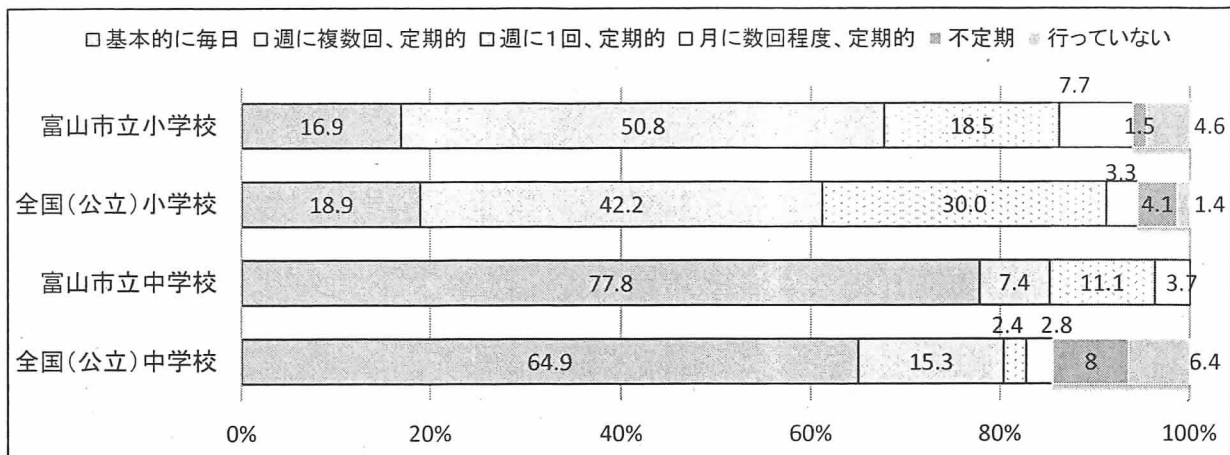
3 児童生徒は礼儀正しい。



※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともかなり低い。

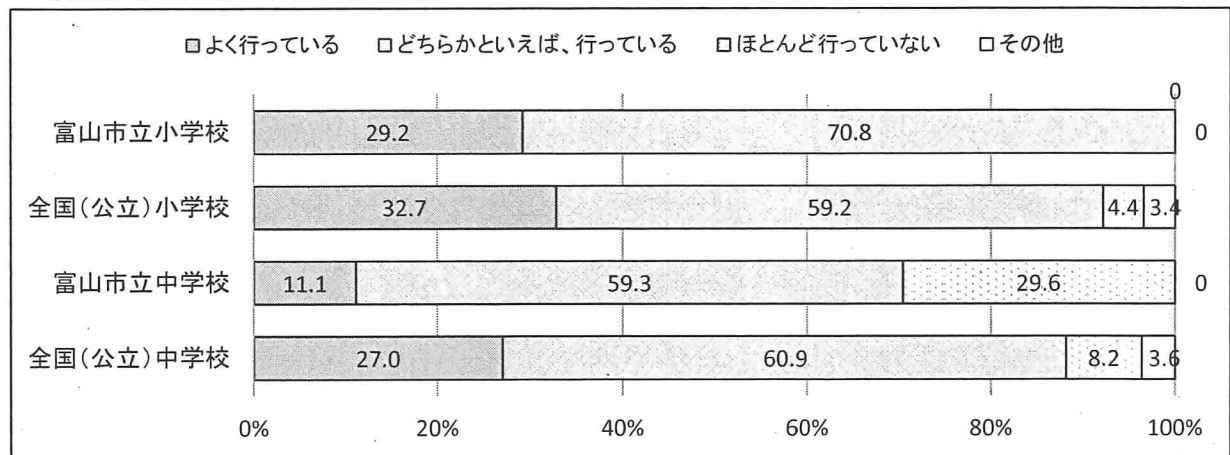
【学力向上に向けた取り組み】

4 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けた。



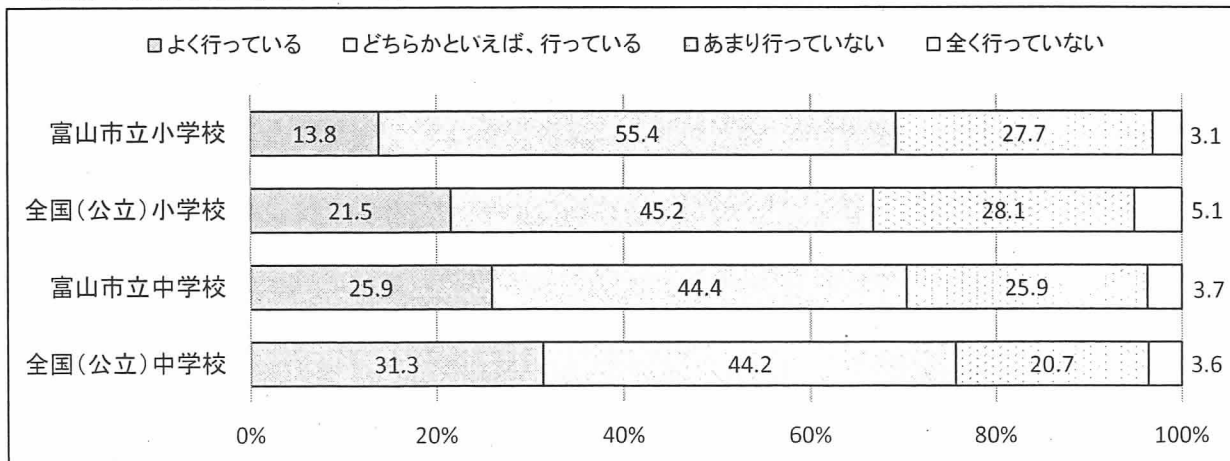
※ 「基本的に毎日」「週に1回以上、定期的」に行った学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校はかなり高い。

5 全国学力・学習状況調査の結果を市学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている。



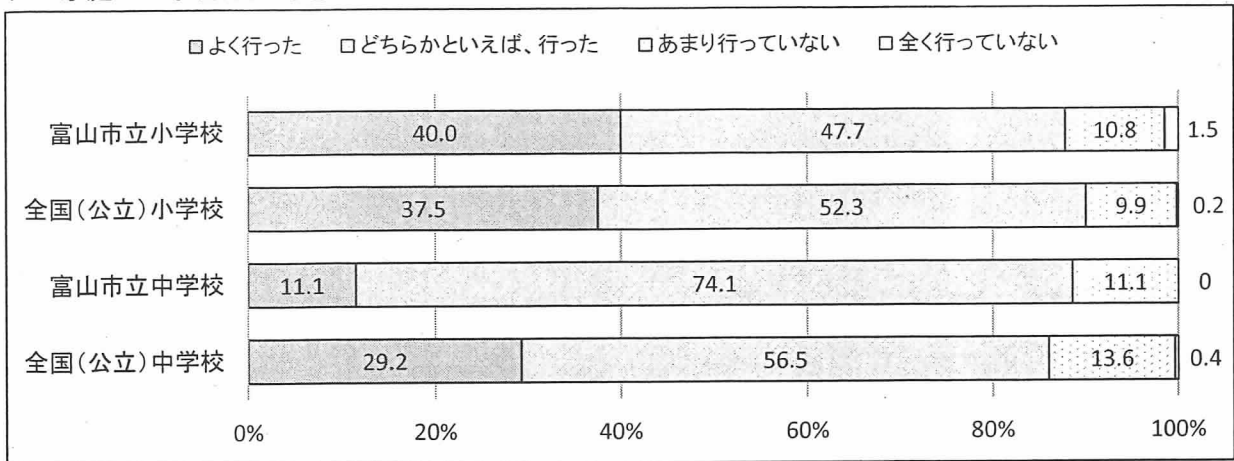
※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」学校の割合は、全国に比べて、小学校は高く、全小学校が実施しているが、中学校はかなり低い。

6 教科の指導内容や指導方法について近隣の小(中)学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っている。



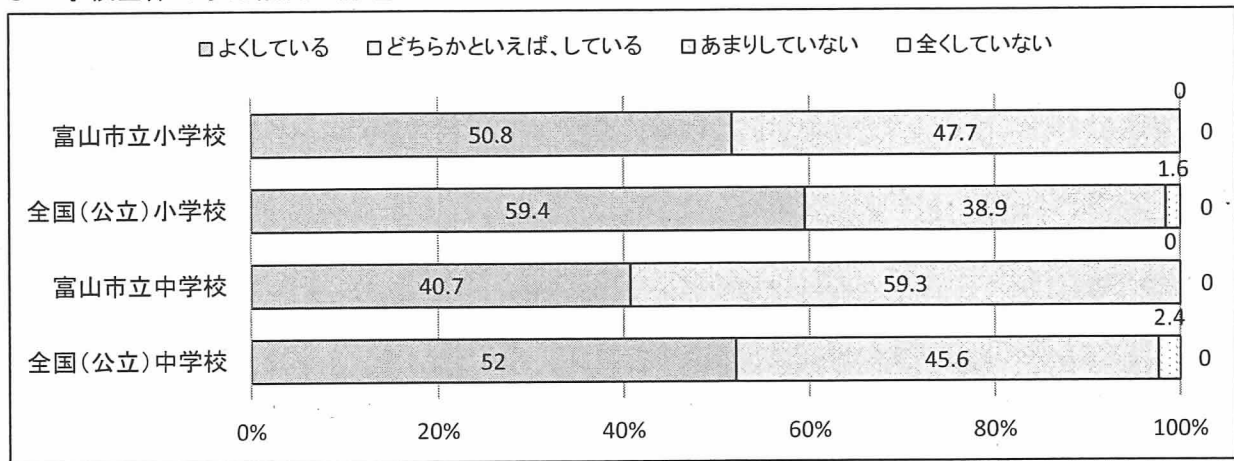
※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

7 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした。(国・算・数共通)



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

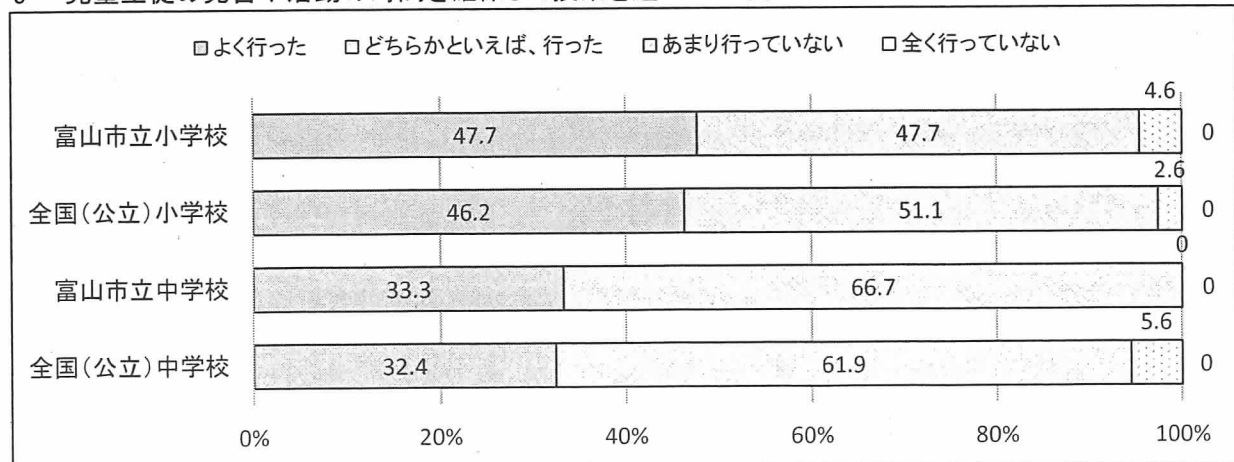
8 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じで、全小・中学校が実施している。

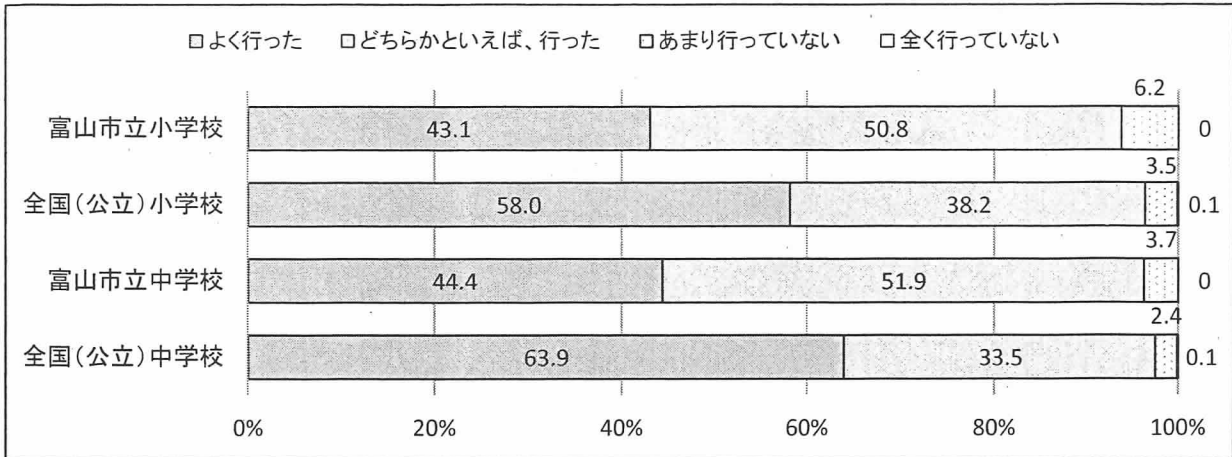
【指導方法・学習規律】

9 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている。



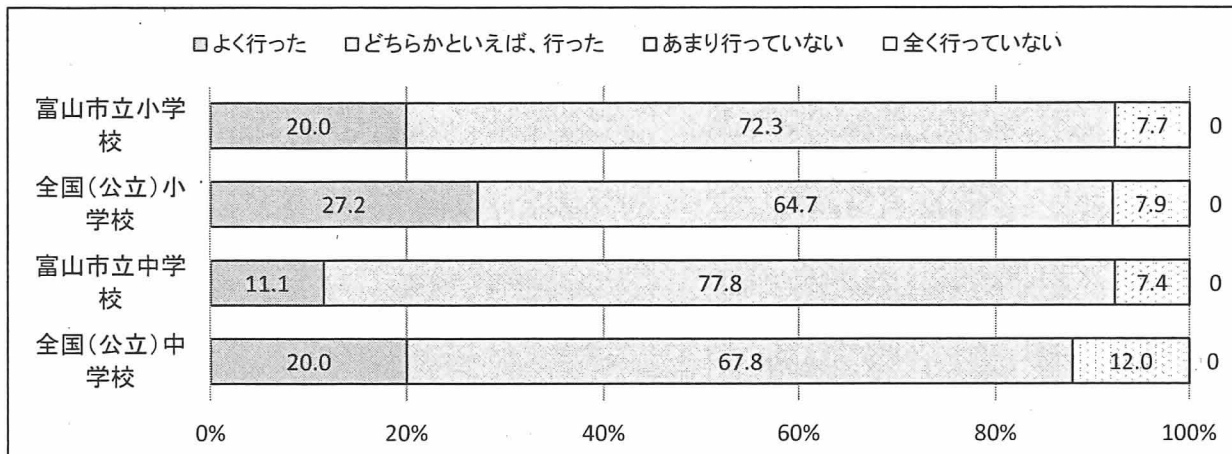
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は高い。

10 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底している。



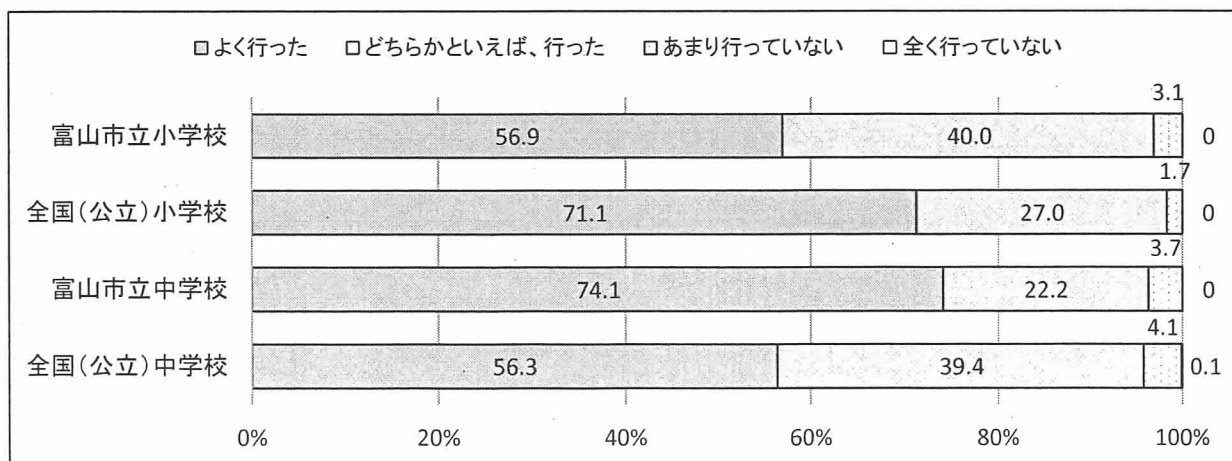
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともに、ほぼ同じである。

11 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている。



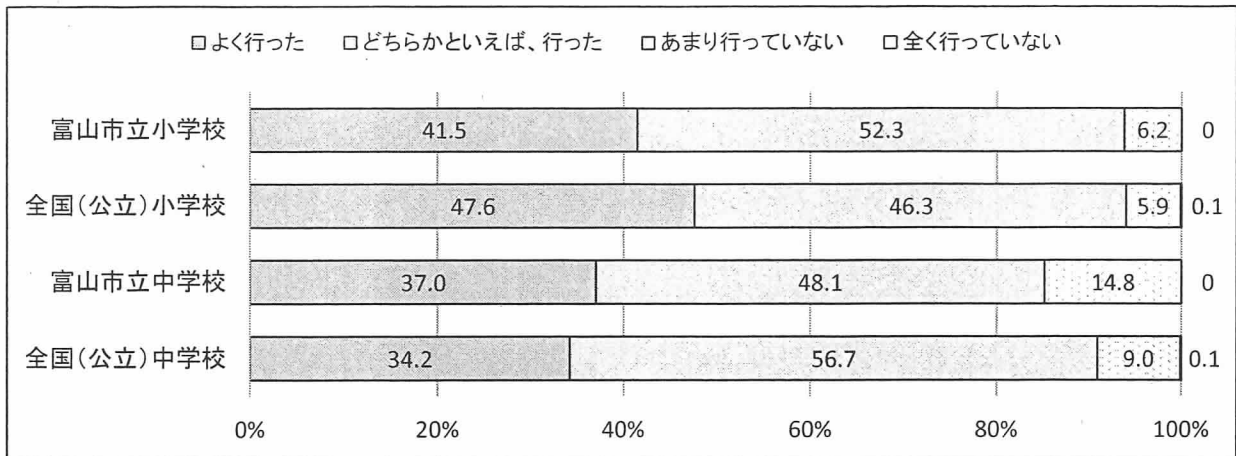
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

12 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れた。



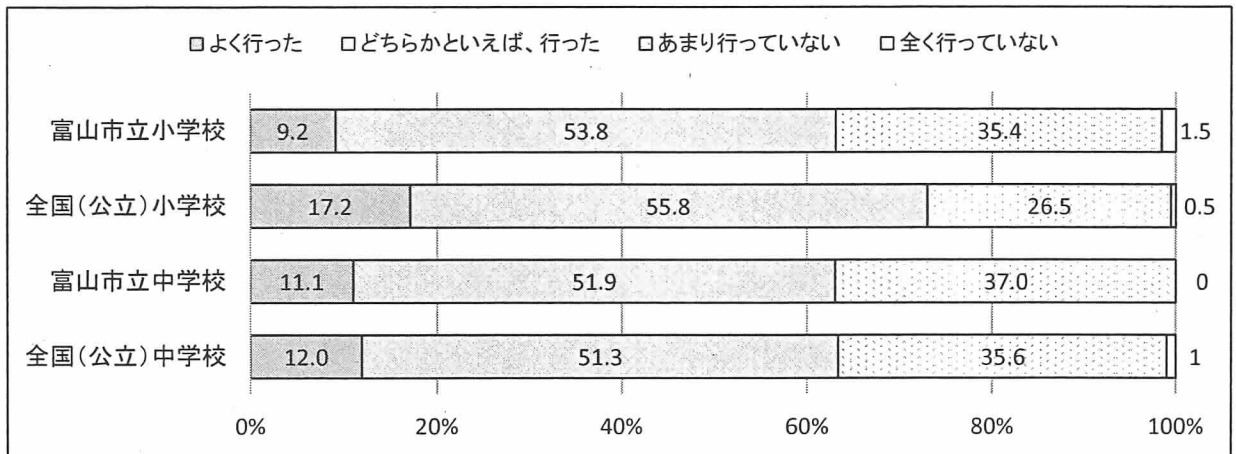
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

13 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。



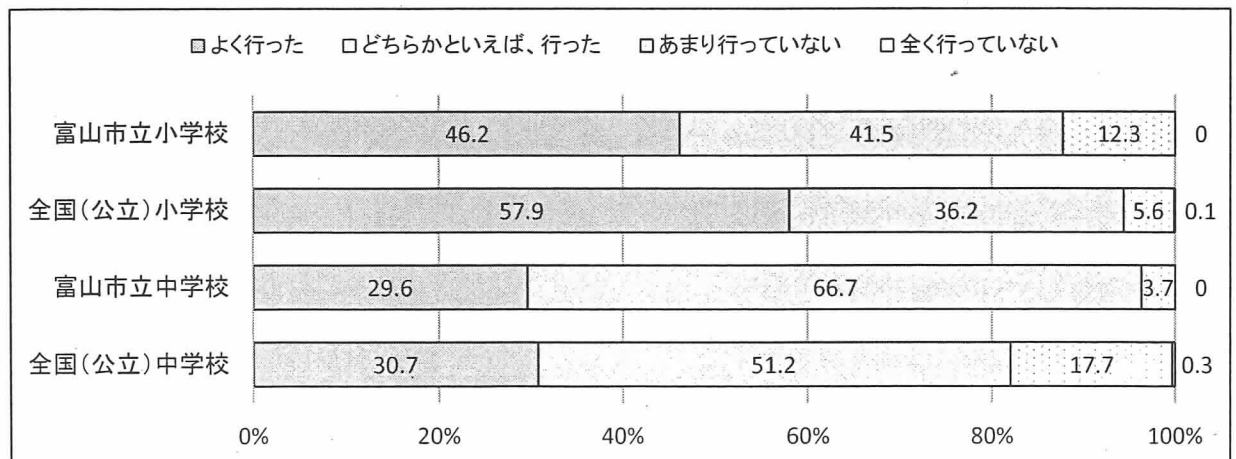
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

14 ★ 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた。



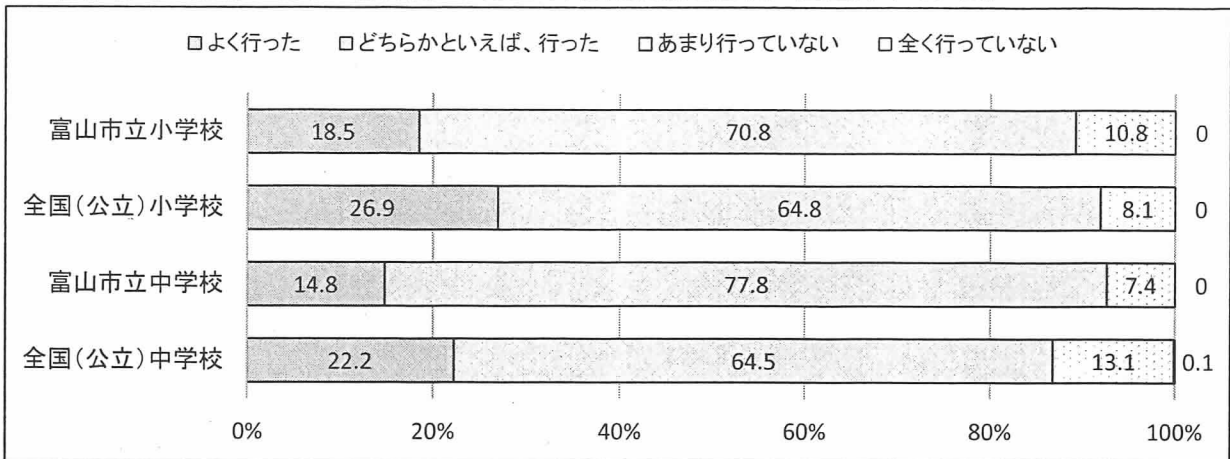
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。

15 ★ 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はかなり高い。

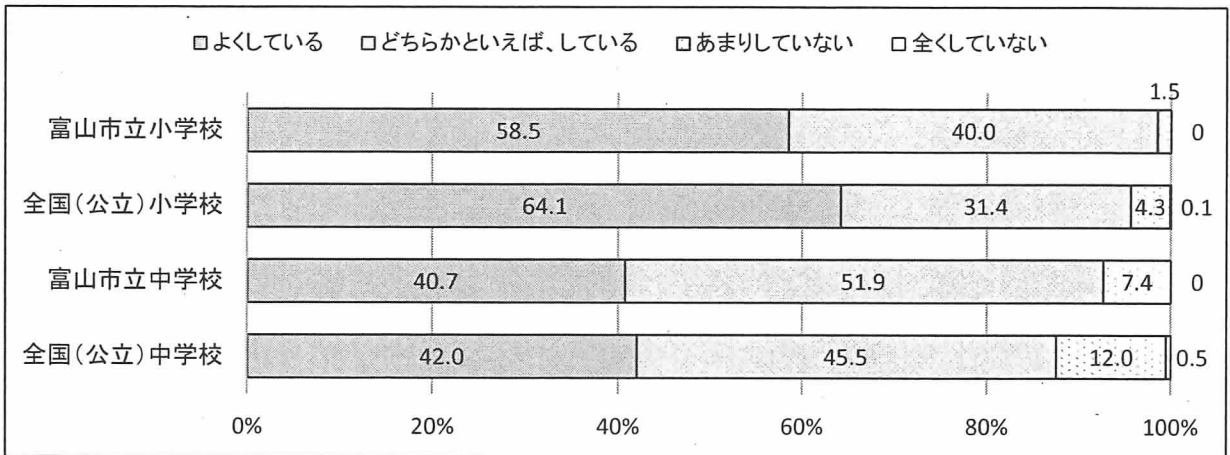
16 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けていた。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は高い。

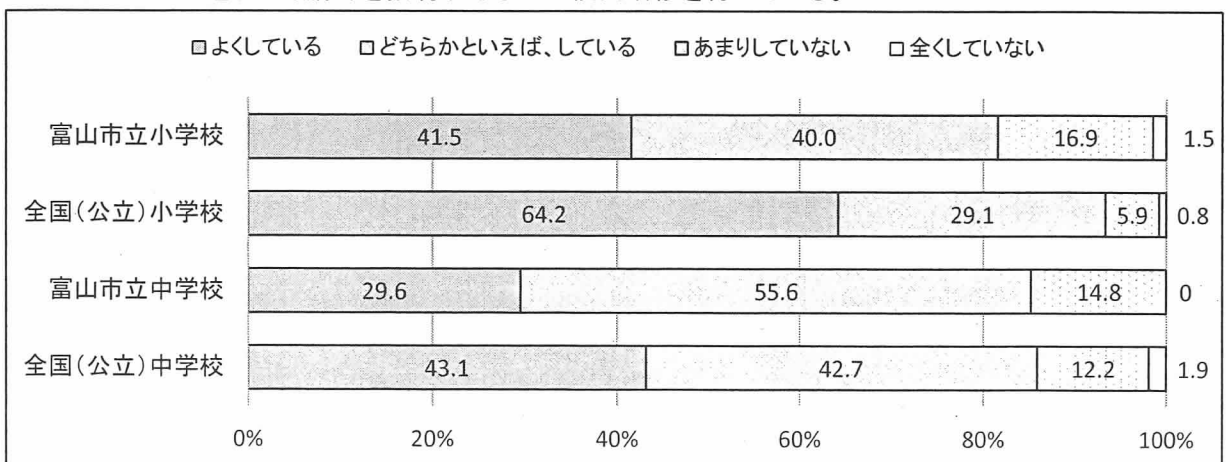
【教員研修】

17 模擬授業や事例研究等、実践的な研修を行っている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや高く、中学校は高い。

18 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。

VI 本調査結果の考察

1 教科に関する調査の結果から

小学校国語

<p>結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平均正答率を全国と比較すると、国語Aは2.1ポイント、国語Bは4.8ポイント上回っている。 ○ 国語A、Bとも、全ての領域等・観点で平均正答率が全国を上回っている。 ● 国語Bでは、設問の文意をとらえ、複数の条件に合わせて文章を書くことに関して課題が見られる。
<p>A：主として 「知識」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 領域「話すこと・聞くこと」の平均正答率が全国よりも4.4ポイント高い。問題形式別に比べると、短答式は0.1ポイント、選択式は、4.0ポイント全国を上回っている。 ● 漢字を書く設問では、第4学年の配当漢字「浴びる」の正答率が、全国を2.4ポイント下回っている。新出漢字の他にも、既習の漢字の定着状況を把握し、日常的に活用したり補充学習をしたりする必要がある。(設問1二①) ● 領域「読むこと」の「コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く」という設問では、平均正答率が16.5%と低く、全国を3.3ポイント下回っている。筆者の意図や思考を想定し、文章全体の構成や表現の工夫をとらえるために、筆者の考えに着目しながら新聞等の比べ読みをしたり、「書き出し」「引用」「事実」「意見」等、筆者の様々な工夫に気をつけて読んだりするなどの指導が大切である。(設問5二)
<p>B：主として 「活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 領域「読むこと」の平均正答率は、全国と比べて5.2ポイント高く、平成26年度より0.3ポイント向上している。特に登場人物の気持ちの変化を読み取り、どのように音読するかを記述する問題では、全国と比べて7.9ポイント上回っている。(設問3二) ● 領域「書くこと」の平均正答率は、全国と比べて5.3ポイント高い。しかし、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く設問の平均正答率は、41.4%、文章と図を関係づけて自分の考えを書く設問の平均正答率が47.7%と低い。(設問1三)(設問2三) <p>書く活動では、読み手に伝えたいことを明確にし、取材した内容等の中から必要な事柄を取捨選択する、取材した内容を引用する、適切な分量にまとめて書くといった指導をすることが大切である。また、図表やグラフを読み取り、それと関連づけて書く場面を設定するなど、「読むこと」と「書くこと」の関連を図った学習過程の工夫が必要である。</p>

設問5二のスクリーンショット。左側に縦長の表があり、右側に文章の抜粋と設問が記載されている。

(●A設問5二
正答率16.5% 誤答率77.4%)

設問2三のスクリーンショット。上部に「読者の感情」に関する図表があり、下部に文章の抜粋と設問が記載されている。

(●B設問2三
正答率47.7% 誤答率47.0%)

小学校算数

<p>結果の概要</p>	<p>○ 平均正答率は、算数A、Bともに、全ての領域・観点で全国を上回る結果となった。</p> <p>● B問題の平均正答率がA問題に比べて低い傾向にあるのは、全国の傾向と同様である。さらにB問題を問題形式別で見た場合、「記述式」の問題の平均正答率が36.1%、また評価の観点別に見た場合、「数学的な考え方」の問題の平均正答率が38.3%と低く、今後も思考力・表現力を身につけさせることが課題である。</p>
<p>A：主として「知識」</p>	<p>○ 領域別で平均正答率を比較すると、どの分野も全国より2.8~4.6ポイント高い。また無解答率も、ほとんどの設問で全国を下回った結果であったことから、基礎・基本が定着していることがうかがえる。</p> <p>● 領域の「図形」において、二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択する設問の平均正答率が低かった。個々の図形の性質について理解するだけでなく、他の図形と組み合わせて考える課題を設定し、多様な考え方にふれる経験を積み重ねることが必要である。 (設問5(1))</p>
<p>B：主として「活用」</p>	<p>○ 領域別で平均正答率を比較すると、どの分野も全国より2.1~3.5ポイント高く、無解答率もほとんどの問題で全国を下回った。しかし、平均正答率は全領域で50%を下回っており、数学的な考え方や活用する力に課題があると考えられる。</p> <p>● 比較量と割合から基準量を求める問題の平均正答率が12.5%とかなり落ち込み、割合の意味や活用の理解に課題があると言える。 (設問2(2))</p> <p>● 分割された2つの面積が等しくなる理由を答える設問において、平均正答率が12.1%、また無解答率も16.1%と高い。授業の中で事象を論理立てて説明したり記述したりする場面を設定していくことが必要である。 (設問5(1))</p>

(1) 三角形ABCが二等辺三角形になるのは、円にどのような持ちようがあるからですか。

下の1から4までの中から最もふさわしいものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1つの円の半径の長さは、どれも同じ長さになる。
- 2 円周の長さは、直径の長さの約3.14倍になる。
- 3 1つの円の直径の長さは、半径の長さの2倍になる。
- 4 1つの円の直径の長さは、円周上の2つの点を結ぶ直線の中でいちばん長い。

(●A設問5(1) 正答率53.2%
誤答率46.1%)

(2) 次に、せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480mLです。

増量前のせんざいの量は何mLですか。求める式と答えを書きましょう。


→

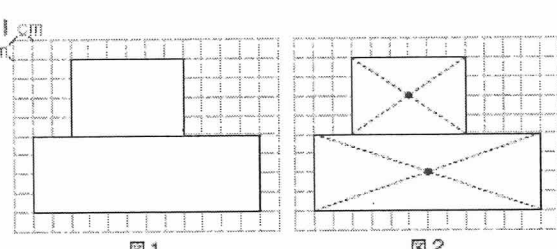
20%増量



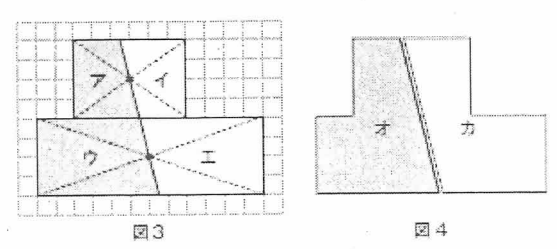
(●B設問2(2) 正答率12.5%
誤答率84.6%)

(1) 図1のような2つの長方形を組み合わせた図形の面積を2等分します。

まず、図2のように、2つの長方形について対角線が交わる点をそれぞれ見つけます。



次に、図3のように、2つの点を通る直線を引きます。すると、2つの長方形を組み合わせた図形は、図4のように、オとカに分けることができます。



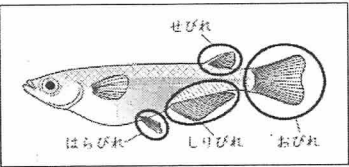
このようにすると、オとカは面積が等しくなります。なぜ、オとカは面積が等しくなるのですか。

そのわけを、言葉や数、アからカまでの記号を使って書きましょう。

(●B設問5(1) 正答率12.1%
無回答率16.1% 誤答率71.8%)

<p>結果の概要</p>	<p>○ 全ての区分・観点における平均正答率が、全国を上回っている。特に領域「エネルギー」は、全国との差が大きい。</p> <p>● 短答式の設問の平均正答率が県よりも3.3ポイント低くなっており、実験器具や現象事項の名称の定着に課題が見られる。</p>
<p>主として「知識」</p>	<p>○ 観点「自然事象についての知識・理解」の平均正答率は、75.0%と高く、全国を6.4ポイント上回っており、基礎的・基本的な内容の定着がうかがえる。</p> <p>● 観点「観察・実験の技能」の平均正答率は、概ね全国を上回っているが、顕微鏡の適切な操作方法を問う設問では、全国を下回っている。対象や目的に応じて、観察器具の適切な操作方法を丁寧に理解させ、繰り返し使用するような指導を行っていくことが大切である。 (設問2(4))</p>
<p>主として「活用」</p>	<p>○ 観点「科学的な思考・表現」の平均正答率は、全国を6.8ポイント上回っている。日ごろの学習で身につけた知識・技能を、自然現象や日常生活等において活用できる力が身につけていることがうかがえる。</p> <p>● 主として「活用」に関する問題の中で、析出する砂糖の量について分析し、その内容を記述する設問の平均正答率が、41.9%と低い。データをもとに考察し、自然の事象・現象について説明する力をつけていくことが必要である。 (設問3(6))</p>

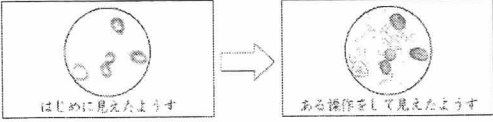
(1) よし子さんは、水そうの中におすめすのメダカがいるかどうかを調べることにしました。メダカのどの部分を見ると、おすめすを見分けることができますか。下の1から4までの中から2つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 せびれ
- 2 はらびれ
- 3 しりびれ
- 4 おびれ

(○設問2(1) 正答率86.9%)

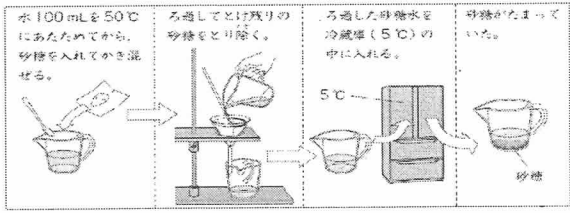
(4) (3)の器具を使って観察したところ、はじめは左下の図のように明るいのに、ぼやけて見えました。そこで、器具を操作したところ、右下の図のようにはっきり見えるようになりました。どのような操作をしましたか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



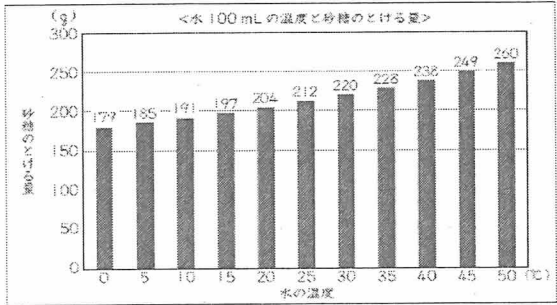
- 1 鏡の向きを調節した。
- 2 調節ねじを回した。
- 3 プレパラートを動かした。
- 4 対物レンズをちがう倍率のものにした。

(●設問2(4) 正答率36.2%
誤答率63.2%)

(6) としおさんは、20℃の水100mLを50℃にあたためてから、砂糖を入れてかき混ぜました。すると、とけ残りが出たので、ろ過してから砂糖水を冷蔵庫で保管しました。次の日、冷蔵庫からとり出すと、瓶に砂糖がたまっていました。



そこで、としおさんは、水の温度と砂糖が水にとける量との関係を調べました。



水の温度 (℃)	砂糖のとける量 (g)
0	177
5	185
10	191
15	197
20	204
25	212
30	220
35	228
40	236
45	249
50	260

前のページのグラフから考えると、砂糖水を5℃の冷蔵庫からとり出したとき、とけきれなくなってたまっていた砂糖は約何gと考えられますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを書きましょう。

- 1 約19g
- 2 約75g
- 3 約185g
- 4 約260g

(●設問3(6) 正答率41.9%
誤答率55.5%)

<p>結果の概要</p>	<p>○ 国語A・Bとも、全ての領域等・観点の平均正答率は、全国より高い。 ● 国語B「書くこと」の平均正答率は全国を3.6ポイント上回っているものの40.3%と低く、複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことや、文章の構成や展開等を踏まえ根拠を明確にして自分の考えを書くこと、多様な情報に触れながら問題意識をもったり、新たな発想を得たりして、自分の考えを記述することに課題がある。</p>
<p>A：主として 「知識」</p>	<p>○ 「聞くこと・話すこと」では3.8ポイント、「読むこと」では3.4ポイント平均正答率が全国より高い。「読む能力」については、説明的な文章において、接続詞や指示語に注意し、論理の展開を正しくとらえ、考えをまとめることができている。また、文章と図を合わせて情報を正確に読み取ることができている。(設問5一) ● 「言語についての知識・理解・技能」では、各設問の平均正答率にばらつきが見られる。特に、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う基礎的な設問で、全国を下回っているものがある。日ごろから間違っ使用れやすい言葉や使い分けが紛らわしい語句を取り上げて、場面に即して正しく使う機会を学習に取り入れることが必要である。また、設問9四の「青さ」の品詞を分類する問題では、平均正答率が34.2%と低い。単語の類別の指導では、例文を使って比較したり、書き換えたりして、文の中で果たす役割の違いに注目するなど、学習活動の工夫が大切である。(設問9四)</p>
<p>B：主として 「活用」</p>	<p>○ 「読むこと」の設問3一では、91.8%と平均正答率が高い。文学的な文章を読む際に、構成や展開、表現の仕方に様々な工夫があることに着目し、読み味わいながら自分の考えをもつ学習活動に取り組んできた成果と考えられる。(設問3一) ● 「書くこと」の設問2三では、平均正答率が全国より高かったものの、30.4%と低い。誤答の傾向から、得た情報を通して、自分が感じたことや考えたことを明確にすることに課題があると言える。日ごろから、資料から得た情報を正確に理解した上で、資料相互の関連性を整理したり、それらの資料をもとに自分の考えを記述したりする学習活動を大切にする必要がある。(設問2三)</p>

四 次の文章の①と②に当てはまるものを二つ選んで適切なものを、あとの十から五までの中からそれぞれ二つ選ぶ。

私は伝説の内容が明確なように、次のアの文をイの文に書き直した。イの文の方が、語の色彩や目印を引いたことがわかります。これは「青さ」という①を「青」という②に替えて、主語になっているからです。

ア 大きな青い葉が私の目を引いた。
 イ 大きな葉の青さが私の目を引いた。

1 文例
 2 熟語
 3 形容詞
 4 形容動詞

(●A設問9四② 正答率34.2%
 誤答率65.1%)

二 あたはは、二〇〇〇年の日本は、どのような社会になっていると予想しますか。また、その社会がどのような問題を抱えていると推測しますか。あなたの考えを、次の条件①と条件②に当てはめて書きなさい。

条件① 資料A ウェブページの文と「日本の人口推移をグラフにしたもの」の資料の二つの中から一つを選び、その資料をもとに考えを述べ、その内容を基に上げて具体的に書くこと。

条件② 「二〇〇〇年の日本は」と続けて、八十文字以上二百文字以内で書くこと(解答用紙に書かれていない語も出して字数を数えます)。

※ 次のページの枠は、下書きに使うのも構いません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

(●B設問2三 正答率30.4%
 誤答率66.9%)

<p>結果の概要</p>	<p>○ 数学A、Bともに、全ての領域・観点で全国を上回っている。特に数学Bでは、全ての設問で平均正答率が全国より高い。また、無解答率は、数学A、Bのほとんどの設問で全国を下回っている。</p> <p>● 数学Bの記述式の設定問の平均正答率が低く、無解答率も他の問題形式と比べると高くなっている。具体的な事象を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。</p>
<p>A：主として「知識」</p>	<p>○ 図形領域、関数領域の平均正答率が全国と比べると高くなっている。与えられた式で体積が求められる立体を選ぶ設問、作図の根拠となっている定理を選ぶ設問、グラフの傾きが速さを表していることを問う設問の平均正答率は、全国を9ポイント以上上回っている。概ね、基礎的・基本的な知識及び技能は定着しているといえる。 (設問5(4)、設問7(3)、設問12(1))</p> <p>● 与えられた資料から中央値を求める設問は、平均正答率が全国を5.9ポイント下回っている。特に中央値を51(度数分布表の真ん中の階級の階級値)と誤解した解答が多い。授業では、用語の意味の理解にとどまらず、その用語を用いて説明させるなどの言語活動を充実していく必要がある。(設問14(1))</p>
<p>B：主として「活用」</p>	<p>○ 資料の活用領域の平均正答率が全国と比べて高くなっている。特に、表から必要な情報を選択し割合を求める設問は、平均正答率が全国を12ポイント上回っている。今後も、資料を整理するだけではなく、整理した結果を用いて考えたり判断したりする授業を大切にする必要がある。(設問5(1))</p> <p>● スクリーンに投影される映像の面積と明るさの関係を「反比例」という用語や数式を用いて説明する設問は、平均正答率が10%台になっている。また、開くと立体が浮かび上がってくるカードの作り方を平行四辺形になるための条件を用いて説明する設問では、無解答率が36.8%と高い。授業では、日常生活で数学が用いられている場面を取り出し、その有用性を実感させたり、考えた過程を説明し伝え合ったりする数学的活動を充実させることが大切である。(設問1(3)、設問3(2))</p>

12 美咲さんは、家から、図書館と公園に寄って、友だちの家に行きます。次の図は、美咲さんが家を出てからの時間と家からの道のりの関係を表したグラフです。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 美咲さんの進む速さが最も遅いのは、何分から何分までの間ですか。下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

ア 0分から5分までの間
イ 5分から25分までの間
ウ 25分から35分までの間
エ 35分から50分までの間
オ 50分から55分までの間

(○A設問12(1) 正答率59.2%)

14 次の記録は、ある中学校の生徒15人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数が少ない方から順に並べたものです。これを下の度数分布表に整理します。

記録 回数 (回)	度数分布表 階級(回)	度数(人)
37	37~41	
38	41~45	
39	45~49	
42	49~53	
44	53~57	
49	57~61	ア
50	61~65	
52	合計	15
53		
53		
57		
58		
58		
62		

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 反復横とびの記録の中央値を求めなさい。

(●A設問14(1) 正答率40.1%
誤答率53.1%)

(2) 春香さんは、図5のように、絵をかき面BCGFを大きくしたいと考え、図6のように、切れ目となるAC、EGをそれぞれ同じ長さだけ上に伸ばしました。

カードを90°に開いたとき、面BCGFが底面に対して垂直に立つようにするには、カードを開いていくときに四角形EFGHがいつでも平行四辺形でなければなりません。

このとき、点Fの位置が決まれば山折りにする線分BFをひくことができます。点Fを図6のどこにとればよいですか。点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明しなさい。

図5 図6

——— 切れ目
- - - - - 山折り
- - - - - 谷折り

(●B設問3(2) 無解答率36.8%
正答率22.1% 誤答率41.1%)

拓也さんが作った表

種類	1回目	2回目
文房具	201	212
ハンカチ・タオル	49	38
その他	55	50
落とし物の合計	305	290
落とし物の合計の平均値 (1学期あたりの落とし物の個数)	20.3	19.3

優香さんが作ったグラフ

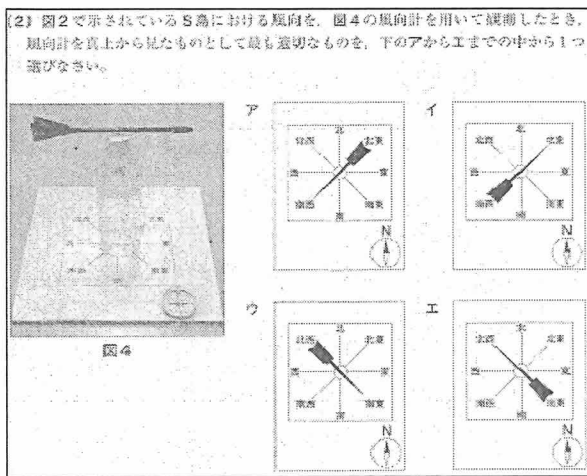
次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 拓也さんが作った表の1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答えなさい。ただし、実際に割合を求める必要はありません。

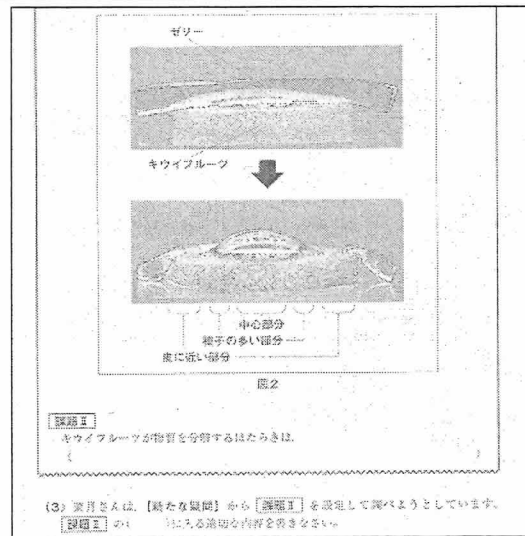
(○B設問5(1) 正答率51.1%)

中学校理科

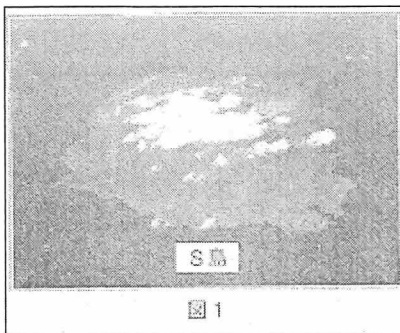
<p>結果の概要</p>	<p>○ 平均正答率が、全ての分野等・観点で全国を上回っている。 ● 記述式の設問の無解答率が高く、問題を解決する方法を言葉で説明する力に課題が見られる。全体的に見ると正答率は低くはないが、特に地学的領域の正答率の低さが目立った。</p>
<p>主として 「知識」</p>	<p>○ 4つの領域の平均正答率は全国を6.2～9.8ポイント上回っており、無解答率も、全設問で全国を下回る結果となった。概ね、基礎的・基本的な知識及び技能の定着が見られる。 ● 天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶ問題では、正答率が49.8%と低く、風向きと天気図、風向計の向きとを一致させることができなかったことが分かる。授業で、自然現象の測定方法や測定値を表現する図やモデル等を多様に取り入れ、場面に応じた表現方法が自在に用いられるようにしていく必要がある。(設問2(2))</p>
<p>主として 「活用」</p>	<p>○ 生物的領域の平均正答率は、全国を9.8ポイントを上回る結果となった。実験結果から新たな課題を見いだす問題では、正答率が高い反面、無解答率も高いという結果となった。授業では、問題解決の過程を大切にし、一定の成果が上がっていると考えられるが、生徒が言葉で説明できるようにきめ細かい指導が必要である。(設問7(3)) ● 地学的領域において、雲の成因にかかわる設問の正答率がもっとも低く、全体の設問の正答率も他領域に比べ低かった。小学校で学習した水の状態変化が自然界での水の循環、天気の変化の要因になっているという見方の広がりにはまで至っていない。授業では、既習内容と関連を図りながら、自然現象を理解していくことが重要である。(設問2(3))</p>



(●設問2(2)) 正答率 49.8%
誤答率 49.9%



(●設問7(3)) 正答率 68.6%
無解答率 18.7%



(3) 若菜さんは、S島の上空だけに雲ができることに疑問をもったので、【資料1】の図2、図3と表をもとに、その理由を下のアからエのように考えました。その理由を見直したところ、誤りに気づきました。誤りのあるものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。また、選んだものを正しく書き直しなさい。

- ア 水蒸気を比較的多くふくんだ空気のかたまりは、S島の山の斜面に沿って上昇する。
- イ 上昇した空気のかたまりが膨張し、湿度が下がる。
- ウ 空気のかたまりの湿度が、露点に達する。
- エ 水蒸気が冷やされて水蒸気になり、雲ができる。

(●設問2(3)) 正答率 21.3% 誤答率 73.8% 無解答率 4.9%

2 児童生徒質問紙調査の結果から

肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの

自尊感情等

全国比：平成27年度本市と全国を比較したもの H26比：本市平成27年度と平成26年度を比較したもの ◎は今年度より調査項目になった質問

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H26 比	考 察
1	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある	小	95.3%	+0.8	+0.5	<ul style="list-style-type: none"> 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかった」と答えた児童生徒の割合は、全国とほぼ同じで、とても高い。 「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合は、全国とほぼ同じであり、生徒の割合は全国よりやや高いが、昨年度と比較すると、やや減少している。 「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。しかし、小・中学校を比較すると、約15%の差がある。中学生が将来の夢や生き方について考えることができる学習を工夫することが大切である。
		中	95.0%	+0.8	-0.8	
2	自分には、よいところがあると思う	小	76.7%	+0.3	-2.2	
		中	73.0%	+1.9	-3.4	
3	将来の夢や目標をもっている	小	85.9%	-0.6	-0.5	
		中	70.0%	-1.7	-0.6	

規範意識

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H26 比	考 察
4	人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている	小	95.3%	+1.4	-0.1	<ul style="list-style-type: none"> 「人の気持ちが分かる人間になりたい」「学校のきまりを守っている」児童生徒の割合は高く、相手の気持ちを尊重したり、自ら秩序を保とうとしたりすることを大切に考えていることが分かる。今後も、規範意識の高揚を図ったり、他を思いやる心を育てたりする指導を充実させる必要がある。 「話し合っって学級のきまりをきめている」と回答した児童生徒の割合は、全国より高い。<u>自分たちできまりについて話し合い、決めているという意識が、きまりを守ろうという意識につながっている。</u>
		中	95.4%	+0.5	-0.7	
5	学校のきまり（規則）を守っている	小	91.1%	±0	+0.1	
		中	93.4%	-1.0	+0.1	
◎ 6	学級会等の時間に友達同士で話し合っって、学級のきまりをきめている	小	85.8%	+5.3	-	
		中	81.6%	+3.3	-	

授業での活動

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H26 比	考 察
7	授業のはじめに目標（めあて・ねらい）は示されていたと思う	小	85.7%	-0.6	+3.8	<ul style="list-style-type: none"> 「授業のはじめに目標が示されている」と答えた生徒の割合が、昨年度から大幅に増加した。教師が意図的に、生徒に分かるような形で目標を提示していることが分かる。 「ノートに目標とまとめを書いていた」と答えた児童生徒の割合は、全国よりやや低い。<u>児童生徒に見通しをもって学習に取り組ませ、学習内容を確実に定着させるために、教師はノートに目標とまとめを書くことを習慣化する必要がある。</u> 「学習内容の振り返りを行った」と回答した生徒の割合は、昨年度より高くなったものの、依然として低い。<u>今後も振り返りの場を確保し、学習の成果を実感できるようにしていく必要がある。</u> 自分の考えを説明したり、書いたりすることに抵抗を感じる児童生徒が多いことから、今後も、話す・聞く・書くこと
		中	81.0%	+1.3	+12.9	
◎ 8	授業のノートに目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う	小	84.7%	-2.7	-	
		中	72.5%	-1.2	-	
9	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う	小	76.2%	+0.9	+3.3	
		中	55.2%	-4.1	+2.8	
10	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明した	小	53.9%	-1.3	+0.5	

	り、文章に書いたりすることは難しく思わない	中	60.8%	-3.6	+2.1	<ul style="list-style-type: none"> を効果的に取り入れていく必要がある。 「課題を立て、情報を集め、整理、発表する活動に取り組んだ」と回答した児童生徒の割合は、全国よりやや高い。しかし、70%台であることから、今後も、児童生徒が主体的に課題を解決していく授業づくりを工夫することが大切である。
◎ 11	学級やグループで課題を立て、情報を集め・整理し発表する活動に取り組んだと思う	小	76.1%	+1.9	-	
		中	71.0%	+5.3	-	

家庭学習

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H26比	考察
12 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上学習している	小	66.2%	+3.5	+2.0	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校とも、昨年度より増加しているが、家庭における学習時間が多いとは言えない。<u>家庭学習の習慣化や意欲の向上が図られるように、家庭と連携しながら、家庭学習の進め方について継続した指導が必要である。</u> 「30分以上読書している」と回答した児童生徒の割合は、全国より高いが、昨年度よりやや減少している。
	中	63.4%	-5.6	+1.0	
13 普段（月～金曜日）、家や図書館で30分以上読書している	小	40.1%	+2.4	-0.4	
	中	32.1%	+1.5	-2.7	

家庭での生活

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H26比	考察
14 家の人と学校での出来事について話をしている	小	80.0%	+0.5	-0.7	<ul style="list-style-type: none"> 学校での出来事を家庭で話す児童生徒の割合は全国よりやや高いものの、昨年度と比較するとやや減少している。 また、「毎日同じ時刻に寝ている」児童の割合は昨年度とほぼ同じであるが、生徒はやや減少している。生活リズムを安定させることが学習意欲の向上につながる。家庭への啓発を図りながら、生活リズムを整えるよう繰り返し指導していく必要がある。 昨年度と比較すると、テレビ等の視聴・携帯電話等の使用の時間が小・中学校ともやや増加している。半数以上の児童生徒が2時間以上テレビ等を視聴しており、60%の生徒が30分以上携帯電話等を使用していると回答している。これらことから、<u>家庭との連携を図りつつ、適切な視聴時間、生活リズムの自己管理に、自主的に取り組めるように繰り返し指導したり、生徒会活動でルールづくりを行うなど、学校の取り組みを充実させたりする必要がある。</u>
	中	75.3%	+1.6	-1.1	
15 毎日、同じ時刻に寝ている	小	78.9%	-0.6	+0.7	
	中	75.7%	+0.5	-2.5	
16 テレビやDVDなどの視聴は2時間よりも少ない	小	39.0%	-1.7%	-0.9%	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度と比較すると、テレビ等の視聴・携帯電話等の使用の時間が小・中学校ともやや増加している。半数以上の児童生徒が2時間以上テレビ等を視聴しており、60%の生徒が30分以上携帯電話等を使用していると回答している。これらことから、<u>家庭との連携を図りつつ、適切な視聴時間、生活リズムの自己管理に、自主的に取り組めるように繰り返し指導したり、生徒会活動でルールづくりを行うなど、学校の取り組みを充実させたりする必要がある。</u>
	中	44.5%	+0.3%	-1.0%	
17 普段、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている時間は1日当たり、30分より少ない	小	72.4%	+0.4	-3.8	
	中	40.2%	+2.3	-1.8	

地域や社会に対する興味・関心

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H25比	考察
18 今住んでいる地域の行事に参加している	小	82.9%	+16.0	-0.1	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の行事に参加している」「地域や社会の問題や出来事に関心がある」児童生徒は、全国と比べると高い。<u>地域と一体になった児童生徒の育成は、今後も重要であり、一層の推進が期待される。</u>また、新聞やテレビのニュース等の記事を活用し、学校で学んでいることと地域や社会とのかかわりを取り上げた授業を行うなど、工夫した取り組みが大切である。
	中	49.7%	+4.9	-0.2	
19 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	小	72.8%	+8.9	-0.2	
	中	60.7%	+4.8	-2.4	

3 学校質問紙調査の結果から 肯定的な回答：「よく行った」「どちらかといえば、行った」を足したもの

児童・生徒 全国比：平成27年度本市と全国を比較したもの H26比：本市平成27年度と平成26年度を比較したもの ①は今年度より調査項目になった質問

	質 問	校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H26比	考 察
1	児童生徒は熱意をもって勉強している	小	87.7%	-4.9	+5.9	<ul style="list-style-type: none"> 「熱意をもって勉強している」「私語がなく落ち着いている」と回答した児童生徒が、小・中学校ともに増加している。しかし、全国と比較すると、「私語がなく落ち着いている」生徒以外は、低い結果となっている。 「礼儀正しい」については、昨年度とほぼ同じだが、全国に比べるとかなり低い。学習規律、挨拶、言葉遣い等、定着するまで繰り返し指導していく必要がある。
		中	88.9%	-0.3	+7.4	
2	授業中の私語が少なく、落ち着いている	小	87.7%	-2.5	+5.8	
		中	96.2%	+2.9	+3.6	
3	児童生徒は礼儀正しい	小	76.9%	-11.5	-0.4	
		中	77.7%	-13.4	-0.1	

学力向上に向けた取り組み

	質 問	校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H26比	考 察
4	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けた (毎日又は週に1回以上)	小	86.2%	-4.9	-7.7	<ul style="list-style-type: none"> 「朝の読書」を行っている中学校の割合は、全国より高く、昨年度より増加しているが、小学校は減少している。その理由として、学力向上の方策として、計算や漢字の反復練習や「書く活動」等を朝の活動等に位置づける学校が大幅に増えたことが挙げられる。 全ての小学校が「各種調査等の結果を分析した具体的な教育指導の改善」を、全ての中学校が「学力傾向や課題についての全教職員での共有」をしていると回答している。だが、「各種調査の結果を分析した具体的な教育指導の改善」をしたと回答した中学校が、昨年度より大きく減少しており、<u>今後</u>も、<u>調査結果を生かし、全教職員が学校の課題と解決のための方策を共通理解し、全校体制で指導の改善に努めていくことが大切である。</u> 「小中連携」について、肯定的な回答をした小学校が大きく増加した。今後も、同じ地域の小・中学校が9年間の学びを一体のものにとらえ、一貫性のある継続的な指導を計画的に進めていく必要がある。 「家庭での学習方法等」について、肯定的な回答をした学校の割合は、中学校は増加したが、小学校は減少している。
		中	96.3%	+13.7	+4.0	
5	各種調査等の結果を分析し、具体的な教育指導の改善を行った	小	100%	+8.1	+4.6	
		中	70.4%	-17.5	-25.7	
6	教科の指導内容等について小中連携を行っている	小	69.2%	+2.5	+20.0	
		中	70.3%	-5.2	-6.7	
7	家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	小	87.7%	-2.1	-6.1	
		中	85.2%	-0.5	+4.4	
8	学校全体の学力傾向や課題について、全教職員で共有している。	小	98.5%	+0.2	±0	
		中	100%	+2.4	±0	

指導方法・学習規律

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H26比	考 察
9	児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	小	95.4%	-1.9	+1.6	<ul style="list-style-type: none"> 「発言や活動の時間の確保」については、小・中学校ともに、ほとんどの学校が肯定的に回答しており、児童生徒の活動の時間を大切にしていることが分かる。 「学習規律の維持」を徹底している学校の割合は、小・中学校とも昨年度より増加したが、全国よりやや低い。各学校で設定している「学習のきまり」等を再度見直し、全教職員で徹底し、繰り返し指導していく必要がある。 「分かりやすく文章に書かせる指導」を実施した割合は、昨年度よりやや増加した。今後も「書く活動」を学習の中にバランスよく、効果的に取り入れていく必要がある。 「授業冒頭の目標の確認」や「授業最後の振り返りの活動」については、特に中学校の割合が大きく増加した。今後さらに、ノートに課題やまとめを書く活動を取り入れ、児童生徒が見通しをもって学習に取り組み、学習の成果を実感することができるようにしていくことが大切である。 「課題設定、話し合い、まとめ、表現する学習活動を取り入れた」学校の割合は、小・中学校とも63%と低い結果となっている。今後、児童生徒が課題を設定し、その解決のために主体的に取り組むことができるよう、授業展開を工夫していく必要がある。 「言語活動を位置づける」中学校の割合が大きく増加した。言語活動の充実は、児童生徒が主体的に学習に取り組み、学力を定着させるうえでとても大切なことである。国語科のみならず各教科等において、ねらいを明確にし、ねらいにあった言語活動を適切に位置づけていく必要がある。
		中	100%	+5.7	+3.9	
10	学習規律の維持を徹底している	小	93.9%	-2.3	+1.6	
		中	96.3%	-1.1	+4.0	
11	自分で調べたことや、考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている	小	92.3%	+0.4	+1.6	
		中	88.9%	+1.1	+4.3	
12	授業の冒頭で目標を示す活動を取り入れる	小	96.9%	-1.2	+1.5	
		中	96.3%	+0.6	+11.7	
13	授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れる	小	93.8%	-0.1	+9.2	
		中	85.1%	-5.8	+15.9	
◎	14	小	63.0%	-10.0	-	
中		63.0%	-0.3	-		
◎	15	小	87.7%	-6.4	-	
中		96.3%	+14.4	-		
16	教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置づけている。	小	89.3%	-2.4	+3.1	
		中	92.6%	+5.9	+11.9	

教員研修

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H26比	考 察
17	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている。	小	98.5%	+3.0	+1.5	<ul style="list-style-type: none"> 「実践的な研究」や「テーマを決めて講師を招聘した校内研修」を実施している学校の割合は、中学校が大きく増加している。小学校では、「講師の招聘」はしていないが、校内研修は熱心に行っていると考えられる。今後も各学校で、教員が主体的に参加することができるよう工夫し、OJTを踏まえた研修を進めていく必要がある。
		中	92.6%	+5.1	+11.8	
18	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	小	81.5%	-11.8	+1.5	
		中	85.2%	-0.6	+12.1	

Ⅶ 今後の取り組み

1 調査結果の取り扱い

市教育委員会では、平成19年度から26年度までに実施された5回の「悉皆調査」と2回の「抽出調査」において、現状に即した教育に努めるため調査結果を公表してきた。

平成27年度は、25年度・26年度の調査から明らかになった課題の改善に向けて取り組んできた結果を分析するとともに、今年度の調査結果を踏まえて残された課題を明らかにし、今後の指導の改善につなげることとする。また、各学校では、まずは、本調査の結果を詳細に分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全教職員で共有することが大切である。また、数値にとらわれず、児童生徒の個々の学力状況や日ごろの学習の様子、学力調査等の分析結果を踏まえて、日常の授業を充実させることが、児童生徒の学力向上につながるものとする。

2 全国学力・学習状況調査で明らかになった課題への取り組み状況

本市の教科区分別の平均正答率は、小・中学校ともに全国を上回った。今年度は平成26年度と比較すると、小学校では国語A・B、算数A、中学校では国語Aと数学Bにおいて、全国との差が広がる結果となった。また、3年ぶりに実施された理科でも、平成24年度と比較して、小・中学校ともに、全国との差が広がった。

(1) 平成25・26年度の課題から見た今年度の結果

① 短期的な対応

テストの無解答をなくす

昨年度に引き続き、今年度も小・中学校全ての教科区分において、無解答率が全国平均を下回る結果となった。それぞれの教科区分の無回答率は、全国の約0.6～0.7倍となっており、問題に粘り強く取り組ませる指導が定着してきていると考えられる。しかし、小学校国語A、算数A・B、中学校数学Bでは、平成26年度よりも無解答率が高くなっている。

これからも児童生徒に「あきらめず、粘り強く取り組むこと」を意識づけていく必要がある。

学力調査の過去問題を活用する

学校質問紙による調査から

ア 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している。

イ 各種学力調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善を行っている。

アについて、ほとんどの小・中学校が「実践している」と回答していることから、教職員間での共通理解は進んでいるといえる。さらに、全ての小学校がイについても「実践している」と回答しており、教育指導の改善が進ん

でいることが分かる。しかし、中学校では、イについて実践している学校が平成26年度よりも大きく減少しており、全国を下回っている。

今後も各学校では、全国学力・学習調査や各種学力調査等の結果を分析し、課題を明らかにした上で、その課題解決の方策を教職員間で共通理解し、具体的な指導改善に活用していくことが大切である。

② 中・長期的な対応

授業の冒頭で、その時間の目標を板書し、授業の終わりに、振り返る活動を取り入れる

学校質問紙による調査から

ア 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す。

イ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れる。

平成26年度と比べて、ア・イについて実践している学校の割合は、小・中学校ともに増加してきている。

「授業の目標を示すこと」「授業の最後に振り返る活動を行うこと」については、引き続き本市の課題として徹底を図っていかなければならない。

家庭学習の習慣化を図る

児童質問紙による調査から

ア 普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか。

イ 家で、学校の宿題をしているか。

平成26年度と比べて、「1時間以上勉強している」児童生徒は、わずかであるが増加している。しかし、宿題をしている児童生徒は、小・中学校ともに全国を下回っている。

また、「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら指導した」学校の割合は、小・中学校ともに全国と比べると低い。「保護者に対して家庭学習をうながすような働きかけを行った」学校の割合は、中学校で全国を下回った。

今後も、家庭と連携を図りながら、児童生徒に家庭での学習方法を具体的に指導していかなければならない。さらに、家庭学習に対する評価と指導を継続し、児童生徒の主体的に学ぼうとする意欲を高めていく手立てを工夫していかなければならない。

児童生徒の自己肯定感をはぐくむ

児童生徒質問紙による調査から

ア 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか。

イ 自分には、よいところがあると思うか。

ア・イについて「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べると高い。しかし、イについては、平成26年度と比べると児童生徒ともに減少している。

「一人一人のよい点や可能性を見つけ、伝えるなど積極的に評価した」学

校の割合は、小・中学校はともに96%以上あり、日ごろから児童生徒一人一人を大切に指導していることが分かる。今後も、児童生徒が自己肯定感を高めることができるように、成功体験の機会を増やし、成就感を味わわせ、教師がそれを認めていくことが大切である。

③ 平成26年度の調査結果から新たに課題として取り組んだこと

言語に関する能力を育成する

学校質問紙による調査から

ア 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした。

イ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置づけた。

ア・イについて実践している学校の割合は、小・中学校とも平成26年度を上回っている。しかし、「よく行った」学校に限ると、小・中学校ともに、全国を下回っている。

言語に関する能力の育成は、多くの学校で実践されているが、言語能力は全ての学習の基礎となるものであることから、今後さらに指導の充実を図り、教師が全ての教科・領域で言語活動を効果的に位置づけていくことが必要である。

規律ある学習態度を育成する

学校質問紙による調査から

ア 児童・生徒に対し、前年度まで学習規律の維持を徹底した。

イ 児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。

平成26年度に比べ、ア・イについて肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校ともに高くなっている。しかし、学習規律が徹底できていると回答している割合が、小・中学校ともに全国より低い。

児童生徒は、落ち着いた雰囲気の中で学習に集中することで、学習内容を確実に身につけることができる。今後は、学校全体で守るべき学習規律を教職員全体で共通理解し、それを徹底するとともに、児童生徒自らが規律ある学習態度を守っていこうとする意識を高めていくための指導が必要がある。

(2) 今年度の結果を踏まえ、指導の充実が求められること

○ ノートに「学習の目標（めあて、ねらい）」と「まとめ」を書く

「授業の冒頭で目標を示す活動を取り入れた」とほとんどの小・中学校が回答している。それに対して、「示されていた」と回答した児童生徒の割合は10ポイント以上低い。

「授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れた」と回答した小学校は93.8%、中学校は85.1%である。それに対して、「振り返る活動を行った」と回答した児童は約17ポイント、生徒は約30ポイント低く、「振り返る活動を行った」と回答した生徒の割合は、全体の約半数という大変低い結果となっている。

さらに、「学習目標やまとめを書くように指導した」と回答した小学校は87.7%、中学校は96.3%である。「ノートに学習目標やまとめを書いていた」と回答した児童の割合は、学校とほぼ同じであるが、生徒の割合は、約23ポイント低い。

以上のことから、教師と児童生徒の意識には隔たりがあり、教師は「行っている」と考えているが、児童生徒は「学習目標」の理解、「振り返る活動」「ノートに書くこと」を十分意識して行っているとは言えない。

今後、教師が、「学習目標を示すこと」「授業の最後に振り返る活動を行うこと」に合わせて「学習の目標とまとめをノートに書くこと」を徹底し、児童生徒に分かるような提示の仕方や言葉かけで指導することが大切である。そうすることで、児童生徒は、見通しと目的をもって学習を進め、学習内容の理解を深めることができる。

○ 言語に関する能力を育成する

今年度の調査では、国語Aにおいて、小学校では、「漢字を正しく書く（浴びる）」「筆者が引用している言葉を書き抜く」、中学校では、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う（たなびく）」「古典の作品名を漢字で書く」の各問題の正答率が、全国を下回った。

また、国語B「自分の考えを書く」問題、数学B「数学的な表現を用いて説明する」問題の正答率が低いことから、「書くこと」に課題がみられる。

昨年度から「書くこと」について課題として取り組んでいるが、さらに言語活動の充実を図る必要がある。国語科において、漢字を繰り返し、丁寧に練習したり、日常の学習や生活の中で言語にふれる機会を増やしたりしながら、適切に使える力をつけられるようにする。さらに、全ての教科・領域において、ねらいを明確にして「書く活動」を取り入れていく必要がある。

3 指導の改善事項

本調査によってとらえた課題について、富山市学校教育指導方針の4つの重点事項の観点をもとに、指導方法の具体例を次に示し、指導の改善に取り組むこととする。

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得のために

【(再)は、昨年度にも示したもの】

ア 児童生徒の個別の課題に応じた繰り返し学習

学習意欲を持続させながら、知識・技能の定着を図る継続的な学習

<例>

- ・ 児童生徒の課題に応じることのできるプリントを準備するなどし、補充学習や少人数学習を積極的に行う。(再)
- ・ 該当学年以前に学習した漢字や計算、公式、用語等を確認する学習やドリル学習を繰り返し行う。(再)
- ・ テスト等の実施後、間違った問題を直す機会を設ける。児童生徒に学習内容で身につけていない部分を確認させ、学習内容の確実な定着を目指す。
- ・ 教科書・該当学年に関係なく、ものや有名人の名前等、身の回りにある漢字を読んだり使ったりする機会を教師が意識して設ける。また、覚え方を声に出す、漢字の成り立ちや「へん」と「つくり」の組み合わせで覚えるなど、意味を理解しながら学ぶことで、苦手意識をつくらない漢字学習を行う。(再)
- ・ 小学校では、主語と述語をはっきりさせ、句読点、助詞の使い方、原稿用紙の使い方等を丁寧に繰り返し指導し、文を書くための基礎的・基本的なきまりを習得させる。(再)
- ・ ことわざや慣用句、故事成語等を教室や廊下にコーナーを作って提示する。言葉や漢字から意味を想像する、絵で表してみる、自分たちでことわざを作ってみるなど、実生活の中で意図的に活用する機会を設ける。(再)
- ・ 国語辞典等を使って、日ごろ使い慣れている語句だけでなく、なじみの薄い語句や使用頻度が低い漢字等も積極的に調べて語彙を広げる機会を設ける。調べた語句や漢字を意図的に使った短文づくり等を行い、文脈の中で正しく使えるようにする。(再)
- ・ コンパスや三角定規等の用具の使い方だけでなく、何のために使っているかを繰り返し確認しながら作図等の操作活動を行う。(再)
- ・ 実験器具の名前と扱い方を正しく覚えられるように、実際に操作する時間を十分に確保し、ノートに操作方法等について書かせる。

イ 育てたい力を明確にし、全校で取り組む継続的な学習

<例>

- ・ 朝学活や終学活で、「新聞記事」や「学校行事」に関わる感想、ことわ

ざや慣用句、故事成語の紹介等、テーマを決めてスピーチを行う。(再)

- ・ メモをもとにスピーチを文章化する。スピーチを聞いて、感想や立場を明確にした自分の意見等を時間や字数を決めて書き表す。(再)
- ・ 授業中における発言の言葉遣いや接続語の使い方等のよさに気づかせ、積極的な使用を促す。(再)
- ・ 新出漢字の学習では、漢字の成り立ちや読み方を伝える、熟語を集めさせる、同音異義語や同じ部首の漢字を調べて併記させるなど、一つの漢字から多くのことを学ぶ機会とする。また、新たな読み方が出てきたときには、再度既習の読み方を併せて書き、意味や使い方を繰り返し指導する。
- ・ 朝読書(または昼読書)を設定し、読書活動を励行する。(再)
- ・ 授業のはじめ3～5分間に、漢字・計算問題や音読等の学習活動や「今日の課題」「日付」をノートに丁寧に書くなどの時間を取り入れる。(再)
- ・ 「日本の言葉」(富山市教育委員会 2009)等を活用して、継続的に音読する。(再)

ウ 学習課題の工夫と学習形態の効果的な活用

<例>

- ・ 「児童生徒の課題解決への意欲がわく」「児童生徒の実態とねらいに応じた」「多様な考えを引き出すことにつながる」など、適切な学習課題を授業のはじめに提示し、授業の見通しをもたせる。また、児童生徒が意識できるように、ノートに学習課題を書く指導を徹底する。
- ・ 目的を明確にして、ペアやグループ学習等による学び合いの場を設定する。その際、話し合う内容(テーマ)や話し合った結果をどうするのかなど、具体的に指示する。(再)
- ・ 個の学習状況等を考慮しながら、全ての児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができるよう、学び合える学級づくりを進める。(再)

※「道するべ～授業のイロハ『優れた学習課題集』～」
(平成26年度配付)の活用

エ ねらいに即した終末の振り返り(評価)の時間の設定

<例>

- ・ 授業の終末において、授業のねらいや学習課題に応じた振り返りの場を工夫する。(再)
- ・ 「書く」活動を積極的に取り入れる。その際、児童生徒の発達の段階や学習内容、授業のねらいに応じ、「何について・どのように書くのか」などを具体的に指示する。(再)

※「『授業のイロハ』 10・11」(平成26年度配付)の活用
(市教育センターホームページよりダウンロード可能)

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成のために

思考力・判断力・表現力等を育成するため、教育活動全体を通じて、知識・技能を活用する学習活動を行うことが大切である。

ア 自分の考えを書く、表にまとめて考えを深めるなど、問題解決場面の設定

イ 自分の考えの見直しを図ることができる話し合い活動

ウ 見つける、比べる、選択する、例えるなど、多様な学習活動

<例>

- ・ 「見通しを立てる」「見通しを立てたことを確かめる」「仮定から推論する」などの学習活動を取り入れ、考える時間を確保する。(再)
- ・ 選択肢のある問いを提示し、その答えを選択した理由を発言させたり、ノートに書かせたりする。(再)
- ・ 小・中の連携、各教科の関連を踏まえて、読解力及び、自分の考えを書き表す力を身につけるよう指導する。(再)

※「読解力向上指導資料」(富山市教育委員会 平成20年発行)の活用

- ・ 自分の立場や考えの根拠となる数値や事例等を正しく引用して書く、書きたいことや読み取ったことをメモ等に簡潔に書き出し、整理・再構成して書くなどの学習活動を取り入れる。その際、引用した箇所と自分の考えとの関連、根拠とした内容の妥当性等を見直す活動も合わせて取り入れる。(再)
- ・ 図やグラフ等が添えられた文章を提示し、図等と文章を関係づけて読み取る学習の場を設定する。
- ・ 書いたりまとめたりしたことを発表し合うだけでなく、検証する、吟味するなどの話し合う活動を合わせて行い、新たな課題の発見や理解を深める学習の場を設定する。(再)
- ・ 算数・数学では、自分の考えの過程や根拠を言葉、数字、図、式等を用いて説明したり、書き表したりすることができるようにする。
- ・ 問題解決後に、その過程を振り返りながら、「何をどのように用いて結果を導き出したのか」を明らかにし、説明する活動を取り入れる。
- ・ 仮説を立て、実験方法を自ら考える学習、また、それが正しいかを子ども同士が検証し、話し合う場を設定する。
- ・ 構造的で分かりやすい板書を行う。事実と考えを関連づけたり、考えを深めたりする板書に心がける。(再)

※「研究員研究紀要 授業の基礎・基本に関する研究」－教師として大切にしてほしい板書－(富山市教育センター研究集録 2013 VOL. 8)の活用

- ・ ICT機器を活用し、資料等を効果的に提示し学習内容に対する児童生徒の興味や関心を高めるとともに、分かりやすく説明したり、児童生徒に課題解決のイメージをもたせたりするなど、指導効果を高める。(再)

(3) 言語能力の育成のために

本市全体の傾向として、「言語についての知識・理解・技能」の習得、「書く力」等の表現する能力、「ねらいを明確にした、言語活動の位置づけ」に課題が見られることから、授業だけでなく様々な場面で、多様な表現活動を行い、言語能力の育成に努めることが必要である。

ア 「言語活動」の実施状況や課題について検討し、ねらいを明確にした上で指導計画に位置づけ、学校全体で取り組む。

イ 「書く」ことを中心に、多様な表現活動を取り入れ、応用力を培う。

ウ よりよい表現方法に学ぶなどして、表現したいことを明確にし、適切に表現する力をつける。

<例>

- ・ 「書くこと」の指導事項が身につくように、各学年に配置された単元のねらいに応じて、言語活動を適切に位置づける。(再)
- ・ 国語科だけでなく、他の教科・領域でも、「事象を論理的に説明する場」「用語を用いて記述する場」「互いの考えを聞き合う場」等を授業に取り入れる。
- ・ 発達の段階に合わせてねらい(指導するポイント)を絞り、ノートの書き方を指導する。その際、丁寧に書くことだけでなく、学習課題を必ず書くことや板書の写し方、見出しのつけ方、矢印等の使い方等を具体的に示しながら、学年や学校で統一して指導を行う。
- ・ 日ごろから、書く目的とテーマ、様式や字数限定等の決められた条件に合わせて書く活動を取り入れる。(再)
- ・ 児童生徒の発達の特性を踏まえて、題材や話題を選んで、その提示の仕方を工夫したり、見方や感じたことの表し方、書き出しや文末表現、文の組み立て方等について多彩な表現方法を示したりする。(再)
- ・ 自分の身の回りの出来事や体験活動から感じとったことをしっかりと表現できるように発言を支える。その際、子どもが主語・述語を明確にして最後まで言い切ることができるように指導する。また、聴き手である教師がよさを認める、子どもが共感を示すなど、安心して話すことができるように努める。
- ・ 友達の説明を聴き合い、何か足りないことはないか、何を補えばよいのかを明らかにし合う場を設定する。
- ・ 丁寧な言葉で話すこと、相手の話を最後まで聞くこと、丁寧な文字で書くこと等の「話し方・聞き方・書き方」の基礎が学習習慣として身につくように、正しい手本と適切な評価を示しながら指導する。(再)
- ・ 自分や友達の記述を吟味させる。また、教師は、文章の流れが順序立っているか、接続語は適切に使われているかなどを指導する。(再)

(4) 規律ある学習態度の育成と学習習慣の定着のために

学校生活や学習習慣の形成に関わる「生活のきまり」や「授業の約束」「家庭学習の約束」等について、児童生徒の主体性を重視しながら、全学年、学校全体で共通理解して徹底して取り組むことが大切である。

<例>

- ・ 児童生徒の自発的な規範意識を高めるために、自分たちで話し合っって学級や学校のきまりを決める場を設定する。
- ・ 時間を守ることや人の話を静かに聞くことなど、学校全体で身につけさせたい生活態度・学習態度を明確に示し、指導を粘り強く行うとともに、できたことや改善されてきたことなどを、児童生徒に積極的に伝える。(再)
- ・ 同一中学校区内の小・中学校間、小・中学校間で連携し、指導事項を統一したり、重点化したりして指導を継続していく。(再)
- ・ 家庭学習の習慣化を図るために保護者への働きかけ方を工夫する。発達の段階、個々の児童生徒の学習状況に合わせて課題を適切に選ぶ。(再)
 - ※「子どもを伸ばす 家庭学習の手引き(小学生版)」
 - 「志と自立心をはぐくむ学びの羅針盤(中学生版)」の活用
(市教育センターホームページよりダウンロード可能)
- ・ 児童生徒の主体的に学習に取り組む態度を育成するために、家庭学習等の課題について、評価・指導を行う。(再)
- ・ 自校の児童生徒のよさや課題を保護者会や学校だより等で示すとともに、児童生徒にも全国学力・学習状況調査等の分析結果等を示して、よさや改善点について具体的に示す。(再)

<参考> 平均正答率が高い傾向が見られた子どもの児童生徒質問紙の項目

<学習状況>

- ・ 授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていた。
- ・ 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた。

<言語活動>

- ・ 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
- ・ 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた。

<家庭学習>

- ・ 家で、学校の宿題をしている。
- ・ 家で、学校の授業の復習をしている。

<規範意識>

- ・ 学校のきまりを守っている。
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う。

<自尊意識>

- ・ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

(平成27年度 富山市 全国学力・学習状況調査結果から)

国語科「基本的な『知識』に関する学習」の学習例
 〈本市の学校からの聞き取りのまとめ〉

【漢字の読み書きについての学習例】

- ・ こまめに漢字練習ノートをチェックし、間違いについては、できるだけその日のうちに直し、覚える習慣を身につけさせる。
- ・ 反復練習させ、定期的にミニテストを実施し、確実に身につけさせる。
- ・ 新出漢字の学習では、ICTを活用したり、筆順を唱えながら何度も空で書かせたりするなどして、筆順を全員で確認する。
- ・ 小学校では、筆順毎に色分けし、色で筆順を覚えさせるとよい。
- ・ 新出漢字の音読み、訓読み、全ての読み方とその漢字を使った熟語について全員で確かめる。
- ・ 国語辞典、漢字辞典を日常的に使うように指導する。調べたページには附箋を貼るように習慣化すると、子どもが自分で振り返ることができる。
- ・ 新出漢字を用いた短文づくりをさせ、その際には、主語、述語等に線を引くなどして、正しい文の組み立てを意識づける。
- ・ 新出漢字の学習の際に、教師が漢字の由来や様々な熟語等を教えることで、子どもはその漢字に興味を抱くことができる。また、家庭学習で漢字の由来等について、調べさせるとよい。
- ・ 同じ部首をもつ漢字探し、同じ読み方をする漢字探し、新出漢字を使った熟語集め等、クイズ形式にしたり競争させたりするなど、子どもが意欲的に取り組む活動を工夫する。
- ・ 漢字の意味、由来、使い方等について一人一人が調べ、調べたことを学級で1冊の本にまとめるなどすると、子どもの意欲が高まる。

【書くことの基本的な事柄に関する学習例】

- ・ 朝学習や授業の始め・終わりの時間を「作文の時間」に設定し、短い時間でも継続して指導する。
- ・ 条件を設定し、その条件を満たす作文を書かせる。その際は、例文を示すなどして、書き方を指導する。

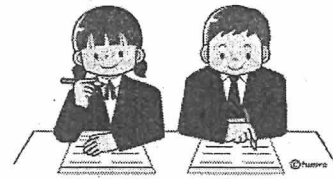


(条件の例)

- ・ テーマを決める（「物語の続きを書く」「〇〇さんへ手紙を書く」など）
- ・ 分量を決める（200字で、2段落で、2文で など）
- ・ 文型を決める（「～です。そのわけは、～」という書き方で など）

- ・ キーワードや接続語を入れる（「まず、次に」という接続語を入れて など）

- ・ 主語・述語等が正しく呼応した文になっているか、句読点の打ち方・指示語や接続語・原稿用紙の使い方が正しくなっているかなどについて繰り返し子どもに意識させるようにする。その際、主語・述語、修飾語・被修飾語に線を引かせるなどして、指導する。
- ・ 「序論・本論・結論」「結論・理由」等の文章の組み立てや、「箇条書きにする」などの書き方について指導する。
- ・ 文章を書いた後、ペアやグループで推敲し、推敲の仕方を交流する場をもつ。その際、何に気をつけて読めばよいのか、観点を示す。



【語彙を増やすことについての学習例】

- ・ 国語教科書の巻末ページを日常的に活用し、様々な言葉にふれる機会を増やす。

（巻末ページ活用の例）

- ・ 小学校教科書6年「言葉の宝箱 感情を表す言葉」を使って、短文づくりをする。
 - ・ 中学校教科書1年「漢字の練習 生き物に関する漢字を用いたことわざ・慣用句」が他にないか、辞典で調べる。 など
- ・ 「朝の会」の日直スピーチの時間等を使い、季語や四字熟語等を紹介し合う時間をもつ。それを教室に掲示し、累積していくとよい。
 - ・ ペアやグループで、熟語集めをしたり、短文づくりをしたりする場を、短い時間でも定期的にもつ。
 - ・ 作文や日記を書く際には、「うれしい」「楽しい」等の曖昧な言葉を使わずに、自分の気持ちを表現するには、どんな表現がよいか指導し、考える機会をもつ。

※ 各学校では、教員一人一人が子どもに言語能力を身につけさせるために、様々な工夫した取り組みを実践している。校内研修で、紹介し合う場を設け、よい取り組みを共有していくことが大切である。

10 学習課題の提示

子どもたち自身が「何を」「どのように」学ぶのかを理解し、学習への意欲や見通しをもつために、学習課題を提示することは、とても大切なことです。

教師は、学習のねらい、理解させたい内容、課題解決の方法等を明確にして学習課題を設定し、分かりやすく提示して、子どもたちに何を学習するのか、意識づける必要があります。

(1) 学習のねらいに沿った学習課題を設定する

① 1時間の学習内容から学習課題を設定する

〈初級〉教科書に載っている問題等を学習課題として提示する
 〈初級〉今日の学習のキーワードを学習課題に入れる
 〈中級〉学習のゴール（今日の学習で理解させたい事柄など）から、提示する学習課題を考える

など

② 意欲が湧く学習課題を設定する

〈上級〉子どもが取り組んでみたいと感じる言葉を盛り込む。

【よい学習課題とは】

ア 解決する必要性がある
 イ 興味関心や学習意欲を喚起する
 ウ 生活経験に即し、身近に感じられる
 エ 多様な考え方ができる
 オ 少し難しいと感じられる
 オ 解決の見通しが立つ

など

(2) 学習課題を明確に提示する

① 具体的で分かりやすい課題提示をする

ア 実物や映像、写真等、視覚に訴える資料を提示して
 イ 教師実験等で驚きを感じさせて
 ウ 既習事項と比較させ、違いを明らかにして
 エ 前の時間に学習したことを想起させて
 オ 日常生活と関連づけて

など

- ・ 「学習課題」「今日のまとめ」「ゴール」等のマグネット付きのプレートを作っておくと、板書に簡単に位置づけられてよい。

② 子どもたち全員に学習課題を意識づける

- ・ 学習課題を板書し、全員で声に出して読んだり、ノートに書いたりする時間をとる。
- ・ 課題を提示した後、自分の考えをもつ時間をとる。（ノートに書く、グループやペアで話し合うなど）
- ・ ゴール（今日の学習で分かればよいこと）を導入の段階で示しておくのもよい。
- ・ 「どのようにすれば解決できるのか」を子どもたちに考えさせたり、教師が説明したりして、見通しをもたせる。
- ・ 何について考えればよいのか、全員が理解したかを確認する。
- ・ 個別指導が必要な子どもには、対話をしながら考えさせる。



11 学習の振り返り

1時間の終わりに、子どもが学習を振り返り、身についた知識や技能を確認したり、自分の考えを整理したりすることで、学習内容が確実に定着し、今後の学習への見通しを立てたり、意欲を高めたりすることができます。

また、教師は、子どもたちの振り返りをもとに、次時の学習での話し合いや導入の在り方について考えることができます。

(1) 自分の考えを文章でまとめる

【次のような書き方が効果的です】

(例)

- ① 友達の意見を聞いて、自分の考えを見直す。
 - ・ 「〇〇さんの意見を聞いて、～と考えるようになった。それは、～。」
- ② 今日の学習のねらいに沿ってまとめる
 - ・ 「〇〇」というキーワードを必ず入れて、考えをまとめる。
 - ・ 「〇〇」という言葉から書き始める。
- ③ 考えとその理由を書く。
 - ・ 「今、～と考えている。そのわけは、～。」
- ④ 新たな課題や今日、分からなかったことをはっきりさせる。
 - ・ 「次の時間に考えたいことは、～です。」
 - ・ 「分かったこと」と「よく分からないこと」をはっきりさせる。
- ⑤ 文章の書き方を身につける。
 - ・ 「はじめに」「つぎに」「そして」と3段落構成で。
など

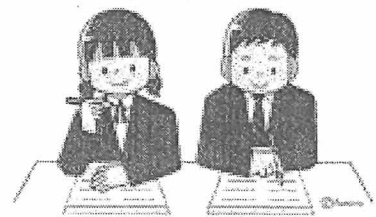
- ・ 振り返りの手がかり（写真、絵、板書等）を提示しておく。
- ・ 個別指導が必要な子どもには、対話をしながら書かせる。
- ・ 「〇分間で」「〇行書く」など、指示を明確にする。
- ・ 書いた文章をペア、グループ等で交流する時間を設けたり、次の時間に教師が紹介したりする。

(2) ワークシート等で自己評価する

- ・ 身につけさせたい力を観点とした自己評価にする。
- ・ 自己評価を継続することで、教師も子どもも変化の様子を知ることができる。そこが、学習の材料になる。
- ・ 短時間で振り返るように、評価項目は5つほどまでにする。
- ・ 理由を書く欄も設けるとよい。

(3) その他の振り返りの仕方

- ・ 類似問題や発展問題に取り組む。
- ・ ペアやグループで、分かったことや次時の課題を話し合う。
- ・ 今日の学習を踏まえて、もう一度音読、合唱、運動等、活動する。
- ・ 関連する本を読む。



「平成27年度全国学力・学習状況調査」の結果について（ダイジェスト版）

富山県教育委員会
学校教育課

今年度の調査から明らかになった取り組み状況

- ・本市の教科区分別の平均正答率は、小・中学校ともに全国を上回っている。
- ・昨年度より全国との差を広げた教科がある。【（小学校）国語A・B、算数A （中学校）国語A、数学B】
- ・3年ぶりに実施された理科では、平成24年度と比べ、小・中学校ともに全国との差を広げた。

平成25・26年度の課題から

1 短期的な対応

①無解答をなくす

- ・小・中学校全ての教科区分で全国を下回っている。
- ・小学校国語A、算数A・B、中学校数学Bでは、昨年度より無解答率が高い。

「あきらめず粘り強く取り組むこと」を今後も意識づける。

②過去問題を活用する

- ・ほとんどの小・中学校が、学校の学力傾向や課題を全教職員で共有している。
- ・学力調査の結果を活用し、具体的な教育指導の改善を行っている中学校が、昨年度より大きく減少している。

分析から課題を明らかにし、具体的に指導改善を行う。

2 中・長期的な対応

③授業の冒頭で目標を板書し、授業の終わりに振り返る活動を取り入れる

- ・冒頭で目標を示し、終わりに振り返る活動を取り入れている学校は、小・中学校ともに増加しており、教師の意識は高まっている。

引き続き、本市の課題として、徹底していく。

④家庭学習の習慣化を図る

- ・1時間以上勉強する児童生徒は、わずかに増加した。宿題をしている児童生徒は全国を下回っている。
- ・具体例を挙げて指導した学校は、小・中学校ともに全国より低い。

家庭と連携しながら学習方法を具体的に指導していく。

⑤自己肯定感をほぐす

- ・自分にはよいところがあると思う児童生徒は、減少している。
- ・ほとんどの学校が、児童生徒のよい点を見つけ、伝えるなど、積極的に評価している。

成功体験の機会を増やし、教師が認めていく。

3 昨年度からの新たな課題

⑥言語に関する能力を育成する

- ・「自分の考えを分かりやすく文章に書く指導」「ねらいを明確にした言語活動の位置づけ」は小・中学校とも昨年度を上回った。

今後も指導の充実を図り、全ての教科等で言語活動を効果的に位置づける。

⑦規律ある学習態度を育成する

- ・学習規律の維持を徹底した、授業中の私語がなく落ち着いている学校は、昨年度より増加した。
- ・学習規律の徹底については、全国より低い。

学校全体で守るべき学習規律を共通理解し、徹底する。児童生徒の意識を高める。

今年度の課題

ノートに学習の目標(めあて、ねらい)とまとめを書く

- ・「学習の目標の提示」「振り返る活動の確保」「ノートに書くこと」に関して、教師と児童生徒の意識には隔りがある。
- ・教師は「行っている」と考えているが、児童生徒は十分意識して行っていない。

教師は、児童生徒が学習の目標とまとめをノートに書くことを徹底する。
児童生徒が分かる提示の仕方や言葉かけで書く活動を指導する。

言語に関する能力を育成する

- ・漢字を正しく書く、語句の意味を理解し、正しく使う問題の正答率が低い。
- ・自分の考えを書く、説明する問題の正答率が低い。

漢字を繰り返し練習させ、日常生活の中で言語にふれる機会を増やして、適切に使う力をつけていく。
ねらいを明確にして、「書く活動」を取り入れる。

